臺灣新民報 夕刊 九月九日
（第二版）明治卅一年五月九日第三種郵便物認可 昭和十四年九月九日（日曜日）
第一万四千一百八十四號 A (一)
臺灣日日新報 臺灣昌新報 夕刊 九月九日
編輯兼發行人 佐々木 舜
發行所 臺北市榮町四丁目廿二番地 臺灣日日新報社
臺北地局（電話代表一八五五）基隆支局 臺中支局 臺南支局 高雄支局 花蓮港支局 澎湖支局
臺中市錦町（電話四〇七）臺南市榮町（電話四〇〇）
花蓮港街八番地（ユタカビルディング内）大阪支局
東京市京橋區銀座二丁目（電話京橋（56）五一一一）東京支局
夕刊定價一部二錢

天下之酒 寶 紋 日

ワルソーに突入
獨軍機械化部隊が
伯林に歡呼の聲
ワルソーを死守
ツーマ司令官が放送

【ベルリン八日發同盟至急報】ドイツ軍機械化部隊は八日午後五時十五分（日本時刻九日午前一時十五分）ポーランド首都ワルソーに突入した

獨軍怒濤の如く殺到

【ベルリン八日發同盟】上部シレジア・ポーランド軍防禦線の北上部隊はポーランド南部を疾風迅雷的に席卷し七日には早くもキエルツエ及びラドムの線に進出、着々ワルソー包圍態勢を執りつつあつたが八日ピリツア河畔の要衝トマシフに據り頑強に抵抗するポーランド軍との間に激戰を展開した後一擧にポーランド軍の陣地を突破し一路ワルソーを目差して怒濤の如く殺到、その先鋒機動部隊は遂に八日午後五時十五分ワルソーの一角に突入、茲にポーランド首都はドイツ軍の蹂躙下に曝されることとなつた

【ワルソー八日發同盟】DNB通信の證實する所に據れはワッズの南方で進擊中のドイツ軍はラッマヴイツキー（ワルソー西南四十五粁）に到達した

キエルツエ附近で激戰中

【ベルリン八日發同盟】ワルソーに向け驀進中のドイツ軍北上部隊の別働隊は總司令官ツーマ將軍が同日午後十時ワルソー放送局より「ワルソーは死守する」旨左の如き放送を行つたと報じてゐる

ポーランド國軍總監スミグリ元帥はワルソー防衛の全責任を皆人に委ねたが、われわれの目下の任務は寸歩も敵の前進を許さぬにある、若しドイツ軍が敢て進擊するならばそれはポーランドの最後の一兵卒がドイツ軍のタンクの下に蹂躙された時であらう、若しこのラヂオが突如沈默することがあれはそれは敵軍の陰謀によつて破壞された時であり斯る場合にはラヂオ以外の他の方法に依つて命令傳達を行ふことにならう

【ワダペスト八日發同盟】昨七日傳ヘラヂオ・ポーランドは八日ポーランド軍の斷

伯林に歡呼の聲

【ベルリン八日發同盟】ワルソーに向け驀進中のドイツ軍北上部隊の別働隊は總司令官ツーマ將軍が同日午後十時ワルソー放送局より「ワルソーは死守する」旨左の如き放送を行つたと報じてゐる

ポーランド國軍總監スミグリ元帥はワルソー防衛の全責任を皆人に委ねたが、われわれの目下の任務は寸歩も敵の前進を許さぬにある、若しドイツ軍が敢て進擊するならばそれはポーランドの最後の一兵卒がドイツ軍のタンクの下に蹂躙された時であらう、若しこのラヂオが突如沈默することがあれはそれは敵軍の陰謀によつて破壞された時であり斯る場合にはラヂオ以外の他の方法に依つて命令傳達を行ふことにならう

【ワダペスト八日發同盟】昨七日傳ヘラヂオ・ポーランドは八日ポーランド軍の斷

キエルツエ附近で激戰中

【ベルリン八日發同盟】ワルソーに向け驀進中のドイツ軍北上部隊の別働隊は總司令官ツーマ將軍が同日午後十時ワルソー放送局より「ワルソーは死守する」旨左の如き放送を行つたと報じてゐる、これに對しポーランド軍は最後の孤城を死守せんとしてゐるものと觀測してゐる

佛軍は着々前進（佛軍發表）

【ベルリン八日發同盟】上部シレジア・ポーランド軍防禦線の北上部隊はポーランド南部を疾風迅雷的に席卷し七日には早くもキエルツエ及びラドムの線に進出、着々ワルソー包圍態勢を執りつつあつたが八日ピリツア河畔の要衝トマシフに據り頑強に抵抗するポーランド軍との間に激戰を展開した後一擧にポーランド軍の陣地を突破し一路ワルソーを目差して怒濤の如く殺到、その先鋒機動部隊は遂に八日午後五時十五分ワルソーの一角に突入、茲にポーランド首都はドイツ軍の蹂躙下に曝されることとなつた

【ワルソー八日發同盟】DNB通信の證實する所に據れはロッズの南方で進擊中のドイツ軍はラッマヴイツキー（ワルソー西南四十五粁）に到達した

キエルツエ附近で激戰中

【ベルリン八日發同盟】ワルソーに向け驀進中のドイツ軍北上部隊の別働隊は總司令官ツーマ將軍が同日午後十時ワルソー放送局より「ワルソーは死守する」旨左の如き放送を行つたと報じてゐる、これに對しポーランド軍は最後の孤城を死守せんとしてゐるものと觀測してゐる

伯林に歡呼の聲

【ベルリン八日發同盟】ドイツ軍機械化部隊のワルソー突入を最初に報じたDNB通信の特派員ハンス・ジークフリート・ニーマン記者の第一報は八日午後七時十七分ラヂオを通じて全國に放送されたが、これに對し伯林の歡呼の聲が揚つた

ワルソーを死守

ツーマ司令官が放送

【ベルリン八日發同盟】ドイツ軍機械化部隊のワルソー突入を最初に報じたDNB通信の特派員ハンス・ジークフリート・ニーマン記者の第一報は八日午後七時十七分ラヂオを通じて全國に放送されたが、これに對し伯林の歡呼の聲が揚つた

ラヂオは市役所と同時にドイツ國歌を放送しこの歷史的突入を祝福しドイツ國民の間には一齊に歡呼の聲が揚つた

ワルソー――寫眞は宮殿前廣場

波軍、リ國境へ敗退

【ローマ八日發同盟】コブノより電報に據れば敗退するポーランド軍はグイナ方面より國境近くに殺到しつつあり、リトアニア政府は八日首都コブノの老人子供に對し避難命令を發しコブノの人口は三分の一に減少した政府は十六歳より十八歳までの男子强制徵集をも行ひ國防の防備强化を計るとともに獨、石油關係のため

佛は樂觀

【ベルリン八日發同盟】ワルソー陷落

貿易行政機構の一元化は緊要

伍堂農商相の車中談

【東京九日發同盟】伍堂農商相は晋任後各地の視察に從事し去る一日午後二時東京驛着直ちに車中の人となり翌二日午後一時半頃名古屋驛に到着するまでの間車中に於て左の如く語つた

今回の視察の目的は主として貿易行政機構の一元化に關する問題に關し實地に就いて關係方面の意見を聽取するにあつたが、その結果は豫期以上の成果を收めることが出來た、貿易行政機構の一元化については既に閣議に於ても數々論議もあり、且つ各方面からも要望されてゐるが、その具體案を作るに當つては相當困難な點の存することも事實である、その困難な點の主なるものは、貿易行政機構を統一して貿易行政遂行過程たらしめる必要を痛感してゐる

東京廣東間の空路が
僅か一日で連絡
臺北から廣東へ料金七、八十圓

【東京九日發同盟】既報水平飛行機關一日運航が出來ることとなつたがこれが料金に關しては目下大日本航空會社と航空局で交渉を續けつゝあるが大體臺北から八十円、廣東間の一般乘客賃金が開始されこの結果東京羊九十円となる筈定で佛印經由四人乘りダグラスD・C・型機を使用することになつてゐる

物資の嵩のに拍車を掛け切符は前日か上にも部數の二倍を通つてゐる

新竹家政女學校の開校式

【新竹通信】去る五月十日開校した私立新竹家政女學校開校式は都合に依り延び〳〵となつてゐたが九月十一日より同校講堂において一番ヶ瀬知事、吉田市井外各有識者數名の參會の下に嚴肅裡に擧行された、同校は新竹の大種に鑑み家政の普及徹底を期し初代校長に州立新竹女子師範教諭の一人李左徒氏が推され一同入學生徒は百四名である

佛印の氣象放送
昨今パッタリ止る
臺灣天氣圖の資料に支障

佛領印度支那では從來國內の氣象觀測所二千ケ所にて發せる氣象の報は一ノ瀬無線局を通じて毎日放送されて居たが、フランス本國が去る二日を以てイギリスと時刻に入つて以來同局は同報放送を休止した、その結果今北の氣象台に毎日各方面より入つて居る氣象觀測のデータが殆ど絶り、天氣圖の資料が缺ける結果となるが、台灣には同地方面より颱風等の來ることが殆んど無いのでさして豫報を發けるところが無いまたシベリアのハバロフスクの放送局からは同地方面の觀測所における氣象觀測の結果が放送されて居たが彼のノモンハン事件以來同放送もパッタリ止まつてしまつたある

ハバロフスク放送局の氣象放送は特に冬期バイカル湖方面より起る高氣壓の動向並びに消長を察知するに必要なものであるが、モンスンの吹き始め吹き止めは台灣としては支那を觀して居ない、更に偽裝偵察といふものは、一寸思はぬほとりに關係を持つものである

世界大戰の流言に
避難民が厦門へ殺到

厦門は歐洲戰爭が波及してゐるかの如き流言が盛に傳はつてゐるが、最も著しきは其の他の地方から世界大戰勃發の流言飛語に怖えて、厦門に避難せんとする避難民がどし〳〵雪崩れ込んで來るのでこれが爲め厦門は非常な混雜を來してゐる、之に對し同地當局は嚴重に取締つてゐるが、之に對し同地當局は嚴重に取締つてゐるが、之に對し同地當局は嚴重に取締つてゐるが

偉大なる母の力

(三)

★海軍省海軍軍事普及部

父こんな物語もあります。

あの息苦しい濛濛と煙の渦巻の真最中、燃えながらに吹きまくる敵彈のあらしを背に浴びて、戰身敵地に單人よじ登つた勇士は、敵前數十米に迫つた刹那迄も尚足を吹き飛ばされて大地にたたき付けられました。後續隊が飛び出してみた時は、既に敵と共に散華されてゐました。

しかし、血だるまになつた勇士が胸の奥ふかく抱いてゐたものは、「ドケ傷が軽手だ、俺が死んだらお前が代るんだ」と言つて激勵した戰友の遺書と、敵陣と敵彈を物ともせず突撃する勇士の心理作用は寸毫に何を敎へるでせうか。生死を超越した戰場で、愈々大事を決行する、その時の勇士等の頭には「生が見えてくれる」と云ふ、生死を超越した戰場の強い事柄であります。

右の外戰線の第十二冊をつなぐ戰線的の物語は「小説に讀まなければ日露戰爭の時の旅順攻略の開塞隊と云ふ様な決死隊が幾度も組織せられる場合、志願する者に、其の志願の理由をきいて見ると、異口同音に「生かかく申しました、生かかう云ひました」と答へるのが常であつたと聞いて居ります。我が日本の生の戰化が如何に大なるものであるかは、嗚々戰線に戰ふ勇士の外はないのであります。

かやうに生の戰化の力は、獨り戰場の場合ばかりでなく、凡ゆる方面に顯著に現れるのでありまして、生の力が國民精神に及ぼす影響は、その生命ともいふべき衣類にも現れます。

衣類のシミ

▽……適當な方法を選んで落す

衣類についたシミは早い中におとすことですが、大抵はあとで氣づくもので。それで、シミを發見したらばその原因をよくしらべて次の方法を參考して下さい。以下普通のシミとからがふものをあげてみませう

△油類、脂肪類、軟膏類

先づベンヂン、揮發油等を綿にしめして叩き取り、次に鹽酸液で拭き洗ひ清水で洗ふ

△ペンキその他の塗料

ベンキは揮發油ぐに揮發油アセトン油アセトン等でこすり取り容器に除去出來ますが必ずおいたのは困難です

△ニス

アルコールで洗ひ、次に鹽酸液を洗ひます。

△印　肉

先づ揮發油、石油、エーテル等で油分を除去し、なほ色素が殘つて居れば鹽酸液で洗ひ取ります

△うるし、とりもち

石油でこすり後揮發油又はアルコールで拭ります

△鐵、樹脂類

初め小刀等で削實又は酒石酸を水にとかしたものでこすり、しみが消えたらすぐに清水でよく洗ひます。又洗色した後をよく水洗ひします。

△色インキ、色鉛筆

初め鹽酸液で洗ひ、なを取れない時は淡い漂白粉液で拭ひ取り後十分清水で洗ひます。但し染色した繊維の場合には漂白粉を使用してはいけません

△コールタール

キャ油又はベンヂンでよくこすり、墨色が殘つて居れば鹽酸液で洗ひ取ります

△うるし、とりもち

石油でこすり後揮發油又はアルコールで拭ります

△鐵、樹脂類

初め小刀等で削實又は酒石酸を水にとかしたものでこすり、しみが消えたらすぐに清水でよく洗ひます。又洗色した後をよく水洗ひします。

△色インキ、色鉛筆

初め鹽酸液で洗ひ、なを取れない時は淡い漂白粉液で拭ひ取り後十分清水で洗ひます。但し染色した繊維の場合には漂白粉を使用してはいけません

新秋來る

(二)

朝夕は
涼しくなつた
山脈もさやかに
太陽の光も……
この島に
秋は來にけり
野に山に
秋は涼しく候

海に親しみ、海と馴染み、海を科學的に利用する智識を總動員して、偉大なる海洋國民の世たるべき敎養と情操をおたがいに切望して已まない次第であります。

この事は、我が日本が當面する新東亞建設と直接關係があり海洋國たる我が大日本帝國の榮々大を為す所以の道に外ならないのであります。

我が日本の世の實務面に世たるべき女性の實務は、以上申述べました通り時の推移を問はず、極めて重大であります。而して其の力は實に偉大であると信ずるのであります。

私は我が日本の世の力は、世界に比類ないものとして、其の眞、善、美を絶へ間なく發揚するものであります。

子供の智能試驗

子供の智能の發達程度を知る尺度になる問題を御參考までに年齢別に擧げてみませう。

七、八歳の子……では、四數の問題は容易に出來なければなりません。五歳の子供の問題も大體出來なくてはなりませんし、六歳の問題も二つ位は出來なくては普通とはいへないと思ふます。一つも出來ない遲鈍な子供は大分遲れてゐるとみてさなければなりません。

(一)ペン「犬はよく走ります」以上をゆつくり讀んで子供に反復させる。一回以上讀んではならない。子供が一字も間違へなければ合格「以になると良く」「今日はよい天氣です」以上の二題出來ればよい。

(二)綿球を四個出して數へさせる(數を先に敎へてゐるだけではなく一つ一つ指さして正しく數へる事が必要)

(三)生徒の手本を示して模寫させる

以上は四歳の子供の問題

(二)次イ)三個の銅貨を數へる。

(二)つづつ指さして數へること。

(二)「四七二九」と一字を一秒の割合で讀み子供に反復させる。一回以上讀んではいけない。「二八四二」「七二六二」の三問の中一問正しければ合格。

(二)「机と何ですか、机とほとんどものですか」と聞いて、子供が用途定義をそれればよい。例へば「本をよむもの」とか「御飯をたべるもの」等と答へれば良い。鉛筆、火鉢、電車、馬、人形について同樣に聞く。但し机は何するものですか」と聞いてはならぬ。

以上は五歳の子供の問題です。

(二)イ)左の手指の數、及兩手合せた時の指の數を聞く。子供が數へないで全部言へれば合格。

(二)綿球に糸を結びに結ぶ。それを手本にして他の綿球に糸を結ばせる。尚が二個出來ればよい。

(二)左右の區別が知つてゐなければならぬ。右の手、左の耳、右の目などと聞く。全部一回で正しく言へねばならぬ。

以上が六歳の子供の問題です

マンソン裂頭條蟲といふのは、子供サナダ蟲のやうな形態を呈し中央部に一個の體節が見られます。これの長さは二米にも達しますが、體節に一個づつの體節が切れ切れに脫落することなく、連續した長い體節が出て來ます

× × ×

このやうな寄生蟲の感染經路をしらべて見ますと、まづ普通、犬以外の動物——中間宿主——の體內に侵入して一定の發育を遂げてから後に犬の腸內に多つて成蟲となるもので、犬がいきなり蟲の卵を食べても決して感染の危險はないわけであります

犬條蟲の中間宿主は大鼠、又は犬風です。鼠類の中に無數に含まれてゐる小動物で、第一のものは淡水の甲殼類に生活するミジンコと稱する小動物です。經過には犬及び猫ですが、かく人に寄生するまでには二つの異つた發育があるので、感染の手も他の宿主間より少いわけです。犬が感染體の卵を食べても、ミジンコを食べても感染しないのに、蛇や蛙が食べると、初めて寄生します。

× × ×

犬條蟲は犬だけでなく猫にも寄生し、稀には小兒にも感染られることがあります。つまり、子供が犬とふざけ散らす時に體節條蟲の幼蟲を傳播してゐる犬の毛を舐めるためであります。最終には犬及び猫の腸內に寄生してゐます。

マンソン裂頭條蟲は二つの中間宿主を要し、第一のものは淡水の甲殼類に寄生するミジンコと稱する小動物で、第二のものは蛙、蛇などですが、人に寄生するまでには二つの異つた發育があるので、感染の手も他の宿主間より少いわけです。犬が感染體の卵を食べても、ミジンコを食べても感染しないのに、蛇や蛙が食べると、初めて寄生します。

× × ×

腸管裂頭條蟲の第一中間宿主はやはりミジンコ類で、第二が鮭鱒のサシミは人にも犬にも感染しますから、鮭鱒の生食は注意しなければなりません。ここに注意しなければならぬ事は感染體を一升五合の水にとかし適當に薄めて洗濯に使用しても、感染の恐れはありません。

家庭洗濯の祕訣

ワイシヤツやエプロン

どちらの家庭でも御主人のワイシヤツや服裝の襟は皆ん取り替へねばならないでせうから、あまり汚れないうちに早目に洗ひ拔き水でサット洗ひ落すやうに、無をつけたいものです、まつ新ぱんを通常にとかし、洗濯ものを二時十分水に浸しておきます、襟廻りのはギザ〳〵のある洗濯板でゴシ〳〵洗つても結構ですが又スフ入りのものは洗濯板も傷みの多いので、決して洗ひたら出來ません、十分洗へたら、十二分に濯ぎをして兩きます、かうして洗濯したものは更に漂白すると結構です、白いものは更に漂白にして效果があるのです。

△コールタール

キャ油又はベンヂンでよくこすり、墨色が殘つて居れば鹽酸液で洗ひ取ります

△うるし、とりもち

石油でこすり後揮發油又はアルコールで拭ります

△鐵、樹脂類

初め小刀等で削實又は酒石酸を水にとかしたものでこすり、しみが消えたらすぐに清水でよく洗ひます。又洗色した後をよく水洗ひします。

△色インキ、色鉛筆

初め鹽酸液で洗ひ、なを取れない時は淡い漂白粉液で拭ひ取り後十分清水で洗ひます。但し染色した繊維の場合には漂白粉を使用してはいけません

犬の健康診斷

うつかりすると條蟲が子供にうつる

近頃犬を飼ふ家が大分殖へましたが、犬を元氣に過ごさせるために、體犬の大敵たる寄生蟲に就いて、醫學士三原誠二氏のお話を次に——

× × ×

マンソン裂頭條蟲といふのは、子供サナダ蟲のやうな形態を呈し中央部に一個の體節が見られます。これの長さは二米にも達しますが、體節に一個づつの體節が切れ切れに脫落することなく、連續した長い體節が出て來ます

× × ×

このやうな寄生蟲の感染經路をしらべて見ますと、まづ普通、犬以外の動物——中間宿主——の體內に侵入して一定の發育を遂げてから後に犬の腸內に多つて成蟲となるもので、犬がいきなり蟲の卵を食べても決して感染の危險はないわけであります

犬條蟲の中間宿主は大鼠、又は犬風です。鼠類の中に無數に含まれてゐる小動物で、第一のものは淡水の甲殼類に寄生するミジンコと稱する小動物です。經過には犬及び猫ですが、かく人に寄生するまでには二つの異つた發育があるので、感染の手も他の宿主間より少いわけです。犬が感染體の卵を食べても、ミジンコを食べても感染しないのに、蛇や蛙が食べると、初めて寄生します。

× × ×

腸管裂頭條蟲の第一中間宿主はやはりミジンコ類で、第二が鮭鱒のサシミは人にも犬にも感染しますから、鮭鱒の生食は注意しなければなりません。ここに注意しなければならぬ事は感染體を一升五合の水にとかし適當に薄めて洗濯に使用しても、感染の恐れはありません。

『榮養價』とは？

何を標準にしたものか

榮養分があるとか榮養價が高いとかいふ言葉がよく使はれてゐますが、一體榮養價といふのは何でせう。これは恐く誰が聞いても知らぬ人の無い程聞き飽きてゐるのです。何を知らぬ人々は勿論、人體の榮養になる榮分を表はす言葉なのですが、それではあまり漠然としてゐますから榮養價を決定する際には何を標準にしたかといふことをよく知らねばなりません。例へば、澱粉を標準にしてみますと、卵や牛乳よりも澱粉の方が榮養價が高いといふ事になります。又タンパクを標準にしても卵や牛乳よりも米の方が榮養價が高いといふ事になります。これは澱粉やタンパクが何程なくのぞいて居ますと云ふ事で、何も

三國志

(12)

吉川英治作
矢野橋村畫

雲外の嶺を行く驕夫

（桃園の巻）

流行る童歌（六）

そんな噂のある際に、黄巾賊の「蒼天すでに死す――」の歌は目的に叶はれて行き、驚くに加へて、擾乱、鎮圧、――の自由にできる我儘の本性を現わした。

とする者が、殊にるばかりだつた。思想の悪化、組織の脆弱、道徳の頽廃。――これを何うしようもない後漢の衰期だつた。

野原の火とばかり、野の手を焼け行つた黄賊の勢力は、今では、冀州、鄴州、徐州、揚州、荊州、徐州（黄河口の淮北地帯）等の諸地方に及んでゐる。

州の官軍は、洛陽を初め、諸所で敗となつてゐるもあり、時つて敗となつてゐるもあり、賊を殺んで、敗北されて居る。数知れなかつた。官軍は兵、財を費けて、生命をおび、寺院や民家は自毎に、大賊良賊混淆――と言つた儘の表裏を門に貼つて、賊軍服後を装ひ、まるで賊軍を庇ふやうに、紛れ込んだ。

自己を生するところ人あり、車を停めてそれに愛す機林の暁とある聞歌を味はつて見るだけでも、さうした現状にあつた。

餓……

長と、まつしたる賊や、黄巾賊の跳梁などを、自慢さうに聞かせて来つて、

「劉――」

と、大方馬元義は、聴かけてゐる行政から、寺の門を、肇で指した。

「ここでも、青い貼り紙を見たら。皆いてある文句も、んだらう。この地方もすつと、他たち黄巾賊の勢力範囲なのだ」

「……」

劉備は、終始黙然と聞いてゐるのみだつた。

「――いや、この地方や、十州二州はおろか全国、今に天下は黄巾賊のものになる。後漢の代はじび、次の新しい代になる」

劉備は、そこで初めて、かう訊ねた。

「では、張角良師は、後漢を亡した後で、自分が帝位に即く賊なんですか」

「いやいや。張角良師には、そんなお考へはない」

「では、誰が、次の帝王となるのですか」

「それは云へない。……だが劉備てゐるから聞かせてやるが」

雲外の嶺を行く驕夫

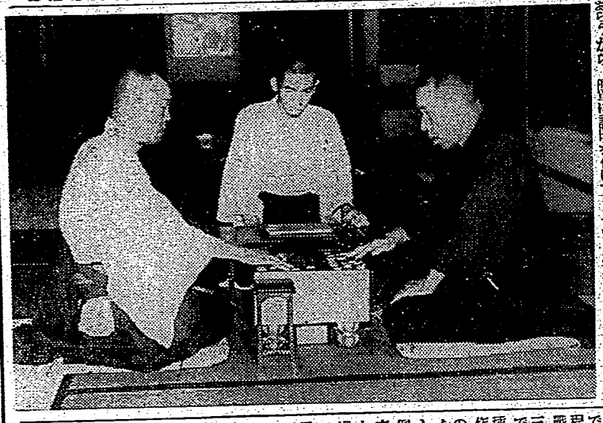
大乗那の雲外の嶺を行く者は山寺の和尚をなし、雲耳、石耳、木耳の仙果を石の鍋で煮てたべたといふ仙人暮れの生活態度のあるものでなくては本当の雲外気分は呑み込めないのである。

どこまでが雲外僧侶かはわからないが、しかし那は燕山といはず嵐山といはず、華山といはず、黄山といはず名山岳嶺の頂はいつも雲に包まれて居る。四川の峨眉山、廬山、鳳凰山の僧侶を聘してゐても、彼の那山十二嶺の奥まつた所に住つて見てもその白雲の間にかくれ父ホンの一部分の嶺の一角のみしか仰ぎ見られないのである。

×

白雲にとざされてゐる嶺に霧、尊するのは実に偉大なものである。山上では白雲海を眺下に見ざるをえず、どいつても、何その際の白雲に興味がこもつてゐる。海上モヤガスのかかり宮殿がフワフワ、ホイツスルを吹ける時はよい気持のするものでない。しかし山上の白雲は、雄大な奥が深い、舒に濶闊、幽邃闊に白雲の去来を見るのは霊妙の境地に入ることが出来ない。

雲外の嶺の中は自分も驚嘆が体験してゐるがそれよりも安閑寂寞した山二十嶺を事変直前に驚嘆したときはうわけ深山嶺谷に入つた際しを初実に受けた、海抜とては七千尺ばかりの嶺であるが、ここには松奇、石奇、雲奇の三奇に接するばかりでなく、雲外の和尚にあひ、雲外の食事を摂り、雲外の仙衣服を聞き、雲外の夜半の月を拝むことが出来た。所謂、富貴も



やきたいと思ふが、相撲り戦以外では、何の形にはこの慶事と、殿近所の進歩で、殆ど定跡が出来上り、利害損失の破れが相当はつきりしてゐるので、新手法の研究は、ますます困難になつて来た。

そこで、局面は各お馴染の組織だつた相撲りである。望者の中には、又相撲りかとこれを初らす人もあらうから、簡単に説明を付けて置かう。

戰抗對者段高棋將 主本社催

【第一局の一】

先△六段 石井秀吉 ▲六段 飯塚一郎

（図は九四歩迄の局面）

九	八	七	六	五	四	三	二	一	
香	桂	金	銀	王	銀	金	桂	香	二
	飛								三
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	四
									五
		歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	六
		金	銀	金	銀				七
	歩	歩	歩	歩	歩				八
香	桂	角	桂	玉	金	銀	金	香	九

▼飯塚氏　○時四分　石井氏　○時一分

相懸り戰無限の興味

八段 齊藤銀次郎

持時間各九時間　消費時間累計

飯塚氏は段初段迄段を革手で貰つた。段にして一段となり当時棋士に加へて六段となつた。革段当らに真進しつた、頭脳遣い手に真進しつた。棋士としての実績を認められて、故同村雲太郎氏六段に準じ、二十段頃からその天才を認められ、故同村雲太郎氏六段に準じ、氏は表彰関係出身、本年四十七歳、二十段頃からその天才を認められて、故同村雲太郎氏六段に準じ、棋士としての実績を認めた。同氏の棋風は共に無限の力を養してゐる力断型、されば、この一段は如何なる力将棋を示すかを将に興味あるものである。

飯塚氏は段初段迄段を革手で貰つた、段にして一段となり当時棋士に加へて六段となつた、革段当らに真進しつた、頭脳遣い手に真進しつた。棋士としての実績を認められて

臺灣日日新報

日本夕刊共十二頁

昭和十五年九月九日第三種郵便物認可　（日曜日）

第一万四千一百八十四號

臺灣日日新報

（一）

和平の餘地なしても

獨波戰が終つて

十日ワルソー入城

ドイツ側の短波放送

【ロンドン九日發同盟】獨ソ間の戰爭は既に十日目に入つたが、ドイツ側の短波放送によればドイツ軍は十日午前を期してワルソーに入城を行ふことに決したと傳へてゐる

【ロンドン九日發同盟】獨ソの戰爭をもつて進軍するドイツ軍の先鋒部隊は八日午後零時十五分ロンドンで傍受されたドイツ側の短波放送に依ればドイツ軍は十日午前を期してワルソー市民に降伏することを勸告するとともに市民が徹底的抵抗を行つて本格的の攻撃を開始するならばとの最後通牒を突つぱねた以上ワルソーに對する總攻撃を斷行し、之に備へる大戰經濟相が強力であるが、即ちポーランド問題發生と共に中立國になると聞はず、各國の財經政策は、正常の狀態に、警察的軍備縮小を斷行し、戰時體制を解いて、經濟的活動同に一大轉換を來さんとしてゐる。此點に關する諸國としては政府の名により「ポ」の宣言をなし、諸種の目的遂行に邁進する事になつてゐるが、此の歐洲動亂が何處まで擴大してゆくか、何は獨逸を許さないものがあるが、之を世界經濟の動向から見ると、もはや不可避とする大體

我國に利益とする觀測が多いので、樂觀されてゐるが、事態の進展によつては必ずしも一概な樂觀は許されない。特に昨今當面の問題や一部商品市場に於ける好況を見て相誤むべきである。

二

先づ戰爭に參加する國々が、軍需品其の他の輸入を增し、輸出品其の他の輸入を減じ、輸出能力を薄弱にするであらうことは自明の理である。從つて我國に取つての場合、之等諸國への輸出が增し、亦一面之等諸國への輸出が減じ、亦一面之等參戰國への輸出市場とした所、我が輸出品が進出なし得ることも自然の勢であらう。然し一面考へねばならぬことは、歐洲大戰當時と違ひ、日本自體が、現に大なる飛躍を遂げつつある今日であり、而もこの機は大體單純輸出業であつて、且つ製品價格を騰げる點り、外國に對してコレ以上の生產力を激增させる餘地が多いとは言へない。更に輸入に於て、歐洲方面より從つて居た特殊資材を何處に求めるか、結局米國への依存を一層深くする外ないとして、コスト高と共に今後益々米國の景氣政策動向に氣を使はねばならぬことになるであらう。

然し短期に於て、海外各國の世界的動態と、必然的な海外物價の騰貴に基く四圍の刺激は、即ち我が品の對外物價騰落等の歷然たる好材料は、今後の輸出品を有利に、輸出產業に積極的好機會に惠まれるわけであるから、此際當局も業者も愼重なる準備裡に、帝國として此際特に採るべき對外經濟政策に終始積勢を占めるやう緩ゆる手段を講ぜねばなるまい。但し廿傳年前の第一次歐洲大戰當時その儘の極な經濟諸關係が、今次も再び現はれるものとは限らず、この間に處する我國業界としては、度を外れた思惑等は愼み、既得の基礎に基いて行動し、將來の見透しについても過ること無きを望まねばならぬ。

十一日正式決定

阿部內閣の政綱政策

戰爭不擴大方針

伊太利の對時局態度

【東京九日發同盟】新內閣の中外に發表すべき政綱政策に就ては、閣僚の間に慎重研究中であつたが七日これが發表を見、閣僚會議に提出したので、首相は同日の閣議に於てこれが草案を基礎として各閣の意見を求め、各閣僚の意見を徵した、依つて支障なき限り首相はじめ各閣僚の發言を終つた後七日正午より開かるべき臨時閣議に於て決定を見るものと見られる、その要綱は

（一）國內態勢方針（二）對內政策（三）對外政策（四）國防國力增强方針（五）經濟政策（六）財政政策（七）思想國民運動方針（八）教育方針（九）社會政策（十）農業政策（十一）交通政策（十二）其の他

△閣僚發表を終つた後、その要綱は內閣情報部より發表される筈である

△閣僚發表の際は內閣情報部長が要綱に依り質問に好影響を及ぼすと考へる向もあるが、初めによつては輸入が不円滑なることも豫想せねばならぬ、わが國の實力を示してゐる重要建設、生產力擴充計畫の進行には特からざる支障を與へられ、結局一般民心に對する惡影響を生ずるので、よく現下の狀況を認識して各方面とも重要重點の大策に協力せられたい

【ローマ九日發同盟】歐洲戰局今後の進展に關聯してイタリー政府の態度が注目の的となつてゐるが八日某有力方面ではイタリー政府の對時局方針は大體左の通りであると語つた

一、イタリーは戰爭が廣大方針を執りつつある、然しながら現在現實に對處」を行つてゐる事實はない

一、英佛と特殊の諒解あるとの風

船舶の沈沒續出

バルチック海一帶で

金光拓相車中で語る

【ローマ八日發同盟】歐洲戰局今後の進展に關聯してイタリー政府の態度が注目の的となつてゐるが八日某有力方面ではイタリー政府の對時局方針は大體左の通りであると語つた

一、イタリーは戰爭が廣大方針を執りつつある、然しながら現在現實に對處」を行つてゐる事實はない

一、英佛と特殊の諒解あるとの風

【ベルリン八日發同盟】ドイツ軍の先鋒は八日午後五時十五分ワルソーに突入したが、殘留部隊は都市の殘敵の掃蕩に當つてゐる

【ロンドン八日發同盟】ドイツ軍の先鋒は八日午後五時十五分ワルソーに突入したが、殘留部隊は都市の殘敵の掃蕩に當つてゐる

【ベルリ

日糖の昭和糖合併
兩社の因緣は深い
經營合理化の利點もある

大日本製糖の昭和製糖合併は後で株式市場の噂に上り昭和株の一段の一因となつてゐたが、右は當時當事者によつて否定されたにも拘はらず昭和株は一向下げないのみかヂリ〳〵騰貴を續け近頃遂に八十圓を突破するに至つたので兩社の合併は愈するに時期の問題であらうといふことに市場の人氣も傾いて來た觀があつたが、愈〻本日の重役會で昭和の合併を決定、本月二十日臨時株主總會を開いて滿場一致で之を可決確認することになつた、之より先に於ても

本月二日昭和の事務山際眞一郎氏は急遽上京したが、その用向きが右日糖との合併にあつたことは今にして明かとなつたわけである、日糖と昭和糖とは昭和の赤司社長を通じて因緣深いものがある、即ち去る大正十一年日糖は爪哇製糖を合併したが此の內外製糖會社を合併したが此の內外製糖は赤司氏が大株主で社長であつたからそれ以來赤司氏は日糖の大株主として關係を續けて來た次で昭和一年日糖が東洋製糖を合併し更に新高製糖をその傘下に收めて新に新興製糖會社を設立して新に昭和糖を創立した時からであるが、氏が昭和の社長になつたのは昭和八年末關ヶ原竹沙糖製糖を合併、昨年以來の資本金二百万圓を七百万圓に增資した時であり、夫まで赤司氏は新興製糖の社長であつたのだ、斯くて昭和は昭和十二年四月資本金を二千万圓に增資して新株六万株をプレミアム十円附にて公、し、玉井工場に關して前記の繼續に關し百圓に對する百圓製糖以來の實績を參酌して

經營 の途中、即繼續者時代の大株主高島直一郎氏の持株約十六万株を赤司初太郎氏と望月軍司郎氏とで肩替りをなし兩氏共に新興の重役となり日糖との因緣を深くしたのであつたが、夫て昭和十年四月新高製糖が日糖へ合併された時、赤司氏は望月氏と共に重役陣より足を洗ふたけれど依然日糖の大株主として關係を續けて來たのである、赤司氏が昭和糖に關係を持つに至つたのは昭和二年台灣製糖を

整理 一分し台灣の事業を立したが昨十二年二月であつた

增資 拂込金を以て昭和が日糖と共同出資の下に資本金二千万圓、內第二回拂込金一百七十万円を台灣ルアル工業株式會社を創立して

合併 を決定、本月二十日臨時株主總會を開いて滿場一致で之を可決確認することになつた、之より先に於ても

發展 に步留の上に資する所多きのみならず砂糖と島印と酸化製糖所の三者を打つて一丸とする巨大な區域は中部台灣に於ける日糖の一勢力といふべく、この外日糖の月眉製糖所と昭和の苗栗製糖所の二者も該取區域を接して居る點からして合併による經營の合理化其他の利點少しとしない、官圍、二并、竹山等の各工場は日糖の區域と離れて居るが、之らは又新たなる經營方針の下にその發展を期することとなるべく然

斯くの如く日糖と昭和糖とは因緣淺く又經營なる關係にあつたのであるが、今一つ遡がし得ないのは原料採取區域の相關係してゐることである、即ち日糖の眉月製糖所と昭和の沙鹿製糖所とは大肚山の頂上を境にして原料採取區域を異にして居り合併後は原料共通上に何かがあり無作の

日糖への一 昭糖合併に就て

昭和製糖　加藤取締役談

大日本製糖と昭和製糖との合併問題に就ては去る六月初旬十五日本年千五百万圓）では今回商業系統中の大同鐵道（資本金八百万圓）を吸收合併するに決定九月臨時株主總會に於て合併契約書を承認の上十月一日を以て合併實施の運びとなつた

大同鐵道 【東京八日發同盟】日產農林と改稱

【東京八日發同盟】日產護謨（資本金千五百万圓）

日產護謨が大同鐵道を合併 日產農林と改稱

臺灣薪炭瓦斯 普及協會創立

台灣瓦斯普及協會創立總會は八日午後三時市公會堂に於て開催の通り創立委員會を開催し、規約を原案通り可決、會長に鍾山林總長を理事に岡部專務、野村誠一の兩氏を選出した

海上保險料 再引上

【東京九日發同盟】歐洲動亂擴大傾向から海上危險は更に增大し英米共戰時保險料の大巾引上げを斷行するに至つたので海上保險二本會は八日緊急委員會を開催の結果、戰時特保險料の大巾引上げを決定、但し日米間船は引續き五割引きとされてゐる、尙云ふ一日大巾引上を行つたばかりである

英國の提示せる戰時禁制品

宣戰布告によつて始める戰爭狀態に於ては、各交戰國は中立國の船舶と雖も次に揭ぐる戰時禁制品を積載して居ることが發見された場合は、その船舶を拿捕し、且つ積荷を沒收する權利を有する

（一）武器、彈藥、爆發物、化學戰用毒瓦斯及び之等の製造、修理に供せられる機械及び右に掲ぐる品目に屬する原料或は半製品

（二）軍用に供し得べき一切の船舶

（三）軍用の燃料の選送

（四）敵國行爲者に仕向けられた場合の貨物

（イ）武器、彈藥、爆發物、化學戰用毒瓦斯及び之等の製造、修理に供せられる機械及び右に掲ぐる品目に屬する原料或は半製品

（ロ）全ての種類の燃料の選送

（ハ）敵國行爲者に仕向けられた場合の貨物

（ニ）武器、彈藥、爆發物、化學戰用毒瓦斯及び之等の製造、修理に供せられる機械及び右に掲ぐる品目に屬する原料或は半製品

（ホ）食糧、食糧用家畜、衣服、被服類、これが生產に供せられる原料その他一切

我國の造船量

物凄い激增ぶり

【神戶九日發電通】鐵鋼統制會社は二十八日四十錢で二回に亘り二千五百トンの鐵鋼を入れる大阪發揚り一四八千錢を入れる大阪發四十四日二千錢で大阪發の六十噸、古鐵相場は變らず十八日午前中に於ても低調を持續

内外商況欄（九日）

【大阪九日發同盟】內地米は各地とも據買氣配の爲め米價は漸騰の氣分を誘發して買付の向き多く、殊に關東米の拂底十二月限は一圓以上の暴騰を見、關西米も之に引摺られ堅調裡に推移、尙ほ當分この氣分を續くものと觀られてゐる

米界見聞錄

【大阪九日發同盟】鐵鋼業者間では七月末までに十五万袋見當迄入るとか▲この關係期は關西方面に於ける製粉の增產期にも當るので製粉業者は原料の買付に狂奔する

撤兵と和平の問題

（下）

汪兆銘派　林柏生の論文

近衛首相に宛つては既報「防共協定期間指定せられる地点に於て駐兵を求む」とされて居るが、その期間並に地点は何れも制限されてゐる、而して佛領和の場合行動問題であることはいふまでもない、国家民族の独立自由、領土主権の完全なる獨立を保障するものでなければならない、若し全面的和平條約が国家民族及び領土主権の獨立を阻害するものであるならば、我々は和平の結果は必ず撤兵を要求すべきである、日支間の保證を要求すべきである、日支間の和平に反對心では和平を望んでゐる人達はそれが疑惑がないといふよりも寧ろ別な考へを持つてゐるのである、彼等は戰爭を終熄せしめ和に至らんことを欲しないのではない、今日まで彼等は吾二吾四国際聯盟に對して調停を懇願した為に我が國民政府の誠意は往生生の損害の下に国家民族全體の為に忍び難きを忍んで今や全国に彰徹として殺りつつある和平運動を阻害するのか、其は一種の完全なる惡意ある煽動である、今全国の和平運動は往生生の損害の下に国家民族全體の為に忍び難きを忍んで今や全国に彰徹として殺りつつある和平運動を阻害するのか、其は一種の完全なる惡意ある煽動である、今全国の和平運動は往生生

△

同月二十九日は往生生は和平條件を說き「中国の自由獨立に無害」なることを以つて著眼点となし

「日本政府が既に明る聲明書を以つて屢々ただに北方各省を保全すべきのみならずまた領土主權及び行政の獨立を尊重し、撤兵後も治安維持に関しては特別の協定を為すことが出来る」

と聲明されたる事項は即ち日本側の和平條件中にあつては撤兵に中国主權の獨立尊重にあつては滿洲に中国主權及び行政の獨立尊重を声明し、我が方の和平條件中にあつてもまた滿洲に中国主權及び行政の獨立尊重を声明したもので「正義の和平」に合するが最大の基本的原則はかくて既に雙方の同意により確立しこれにより「戰爭を終了すれば即ち国家の生存獨立は保つべく即ち侵略の目的は既に達せられた」のである

△

從へば撤兵問題の如き往生生は特に日本軍隊から部隊單位に中國より撤退することは最も必要であるが、所謂駐兵區域内に内蒙沿邊の地點に限り日本軍の駐兵を認めるが、此の事は中国主權及び行政の獨立尊重に違反しない為であつて中國は戰後の休養をとり現国家の建設に努力し得るのである

と指摘してゐられる

これは單に往生生の希望を述べたものでなく「中国の主權と行政の獨立尊重の願する所」として可なりの根據を示したものである

△

而して撤兵問題は四月初旬、駐兵經費の納税には都市消費稅を以つてし通告を發し更に英國當局に於ても同様の手續を講ずる旨發表した、その後和十二年十二月下旬に至り華北地方における法幣の金融緩和は益々顯著になり更に租界内の關係筋の活動を阻止する結果、各國の不滿不利が發生するため遂に十二月廿九日より電氣水道料その他の税金は勿論一般關係筋の使用も差支なき旨の通達を發したが、その理由としては最近二回に亘る敵飛行機が重慶を爆撃したので我方は其の不安なることを感じ對法幣に對し同等の增税を行ふので從つて此の增税費に對して一割五分の增金（打抱）の意味ではないことを說明して來たので結局之を承認したが法幣は依然二〇ペーセント内外の打抱を以て通用してゐるが是正するを要する

二、天津市内の英外事處經に依れば英當局は獨自租界内の警察保管してあつた現銀約一億元を英國銀行に運び一部は香港に送金し殘額は上海に送金する事に決定した

三、英國銀行の現狀

英國銀行に於ては現銀に對し一定の手數料を徴收且つ利子支拂を為さずとの條件の下に預金に應じてゐる（昭和十二年五月）

又英租界内に於ては當局を始め各種の對策を講じたが雙方の外交交渉に依り解決を見た

四、英佛和銀行の狀況

英國系英佛和銀行に於ては現銀に對し一定の手數料を徴收且つ利子支拂を為さずとの條件の下に預金に應じてゐる（昭和十二年五月）

又英租界内に於ては當局を始め各種の對策を講じたが雙方の外交交渉に依り解決を見た

五、英工部局は紙幣の場合には額面金を拂ふべく通告す

昭和十二年七月中旬英合同銀行が閉鎖されて以來英當局は其の

天津に於ける英の對日敵性行爲

一、英工部局の對日經濟妨害制裁

昭和十二年九月三日英工部局では局員及び佛工部局員等約二十名と租界内巡査の雇傭及び金融

（第四　英當局の經濟上の不法行爲）

問題に關し左の問題を中心に種々協議した

（イ）租界内に於ては從來通用されて來た英佛兩銀行券を總て通用せしめ、英租界としては英國系加和銀行券を發行して英佛租界内に通用させること

（ロ）租界内の金融に關しては臨時政府發行の聯儲銀行券の流通を絶對に阻止すること

（ハ）英佛租界に於ては出來得る限り聯銀その他生活必需品の搬入を制限し警察の際に當てること

（ニ）英國關係及び租界内主要通路は嚴重なる警戒を實施し且つ制止に關し臨時政府等の警察的出動を計ること

二、英銀行の金塊取扱所閉鎖

天津英租界にある滙豐銀行（英系）は北支金融の集中を企圖し華人金融ブローカーを閉鎖せしめ和十二年十月十二日より取扱を開始したが在津英國人等關係は當面に於て之に對し積極的に援助を與へ北支金融擾亂を行つてゐる

三、外國銀行團の法幣擁護策

在津英當局に於ては聯銀券の通用强化に伴ひ之が對策樹立の要ありとし昭和十二年十月初旬米佛當局並に外國銀行團、主要商社の代表二十名を集めて法幣擁護對策を協議したが外國銀行團は各種の對策を講ずると共に聯盟月號日に到達代表者が集合して會議の結果に依り行動することに決定した

四、英佛和銀行の狀況

英國系英佛和銀行に於ては現銀に對し一定の手數料を徴收且つ利子支拂を為さずとの條件の下に預金に應じてゐる（昭和十二年五月）

又英租界内に於ては當局を始め各種の對策を講じたが雙方の外交交渉に依り解決を見た

五、英工部局は紙幣の場合には額面金を拂ふべく通告す

昭和十二年七月中旬英合同銀行が閉鎖されて以來英當局は其の

（ハ）英國系銀行の現銀取扱制限

（ニ）英國系銀行の聯儲券取扱制限

（ホ）英國系銀行の聯儲券預金の聯銀券への切換

（ヘ）英國系銀行の聯儲券貸出の聯銀券への切換

（ト）英國系銀行の聯儲券の聯銀券への兌換

（チ）英國系銀行の聯儲券の法幣への兌換

（リ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ヌ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ル）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ヲ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ワ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（カ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ヨ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（タ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（レ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ソ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ツ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ネ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ナ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ラ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ム）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ウ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ノ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（オ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ク）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ヤ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（マ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ケ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（フ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（コ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（エ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（テ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ア）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（サ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（キ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ユ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（メ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ミ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（シ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ヒ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（モ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（セ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ス）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ン）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ハ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ヒ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（フ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ヘ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ホ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（マ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ミ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ム）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（メ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（モ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ヤ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ユ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ヨ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ラ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（リ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ル）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（レ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ロ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ワ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ヲ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ン）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ス）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（セ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ソ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（タ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（チ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ツ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（テ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ト）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ナ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ニ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ヌ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ネ）英國系銀行の聯儲券の外國爲替への兌換

（ノ

空に殘れる (108)

尾崎士郎作　高木清畫

道はるかなり (廿)

信作は大谷の終点でバスを降り、敗北道路を横切ってもとの道の方へ小路を入っていった。あたり一帯の様子は以前と少しも変ってないのに、まるで、あたらしいところへ来たような気がする小路の角にある、しるこ屋の店先から青い文字で「氷水」と押き出させたガラスの障子がいつの間にか消えてなくなり、赤いメリンスの暖簾に変ってゐる。呉物屋の店頭には西瓜のかたまりが鮮かな彩りを想はせる様に積み重ねられ、洋服屋の飾窓には早くも夏の衣類が取り除されてゐる。

ならうものなら以前のまま の風景であって欲しい。——さういふ心だのみが無残にも破れおちるのを信作は感じた。一ト月ちかい時間の経過がかういふ変化のかたちをとって、何事かを彼に訴はうとしてゐるかのやうだった。

信作は小路からもとの家の方へ曲る路角の交番の前で、ひよいと中を覗きこんだ。もし以前の巡査がまだゐたら、即に言葉を交したこともなく、即染のあるわけでもないが、何か挨拶をしたいやうな気持にさへなってゐたのである。

しかし、でっぷり肥って人の好さそうだった以前の巡査の姿は見えないで、色の蒼白い即にロイド眼鏡をかけた神経質さうな、二十八九の若い巡査が小さい机に向って厚い帳簿の頁をくってゐた。

ああ、あの巡りさんも転任したのか——と思ふと、信作は説明した感情だと知りながらも、

「彼いま何処にゐやう？」

と呟かずにはゐられなかった。

それは一人の巡りさんに対してだけでなく、数々の生活の記憶を畑めたこの小さい部落の人にも家にも呼びかけたい衝動だった。

信作はもとの家の前まで来てぴったりと足を停めた。玄関には「貸家」と書いた紙がぶらりつけてあったのだ。彼は勝手知った裏口にまはり、すぐに中に入った。

雨戸は全部開めきってあるが、一部分あるかなしかの硝子には、見慣れのある八ツ手の葉が重い葉をたれ、その下に、朝顔の蔓が細い蔓をからませながら延びてゐる。

——ああ朝顔が！

青物屋即の「二ノ午」の二銭から引越して来た時、わづかな貨物のために新宿まで出た市場路、伊保子にねだられて買った朝顔の種子だった。

その朝顔。伊保子は信作がまた即てゐるうちから起き出て種子をまき、また時いたばかりの朝顔のためにささやかな竹垣さへ作ってやったのであった。

——伊保子はどんなに朝顔の咲くのを待ちこがれてゐることだらう。その花の咲くのが伊保子の生活の象徴だったのかも知れない。

進撃！　薇園を席巻する！ドイツの戦車隊

信作はもうそこに立ってゐることに耐へられなくなった。

横町から聴いたカフエー「ゴールド」で父親に逝れもどされたといふ女の話も気になってゐたし、それがなくても伊保子がこの家に住んでゐるとは夜想しなかったが、あなければないで、近所の人にその後の動静を訊いてみようと思ったのであるが、今はもう顔を見られることさへ苦しかった。

信作は露地を駈け抜けるやうにして大久保駅の方へ引返した。

スイスで瓦斯タービン建設

古代にあった太平洋の異變

一夜に海底に沈んだ大陸

木舟」を操って勇敢に太洋を渡り歩く人々もあって、僅かづつ断片的な知識が積み重ねられもしてゐるが、大體は単なる臆測や其他の自然現象物を基礎として原始生活をやってゐる、探検家の記録によると、此島に上陸して見ると、線の山の山腹には多数の石像群が林立してゐるといふ。

×

一體それは誰が、何時の代に作つたものであらうか——此の不思議は人類を暗黒色の火山岩に刻み付けられた巨大なもので——併し其大分は風化や天然異変の為に破壊されてゐるが、それでも雄大且つ巧妙を極め、合石なども長さ八、九十米もあらうといはれる。巻石に巧に工作を施して出来たもの丈けで像の高さは十五米乃至十八米にも及ぶ。

×

其他島の諸所には古代の石造家屋が遺存してゐる。家屋は即日三十米乃至六十米、暗の壁には一米半もあり、内部の床敷には板石が敷詰められてある、又原始的な動物の彫刻も施されてゐてどうしても単なる土人が作つたものではない、更に不思議なのは壁に彫刻されたエヂプトの象形文字に似たそれであることである。

×

此の島が太平洋の何処にあるかといふことは、科学の進歩するに従ってそこに新しい光が投げられもするであらうが、——今日迄の研究論文の発表があつた。——

記者さんとすることは知ってゐたが、その中で最も多衆の興味を惹くことは十分な解答が与へられてゐないことである。

×

また本洲の東北部が、僅かづつであるが太洋の方向へ移動しつつあるといふ説も曾て即者の中に発表されたことがあつたが、——今日迄の地学者では、——例へば我国の一流の地質学者である、井上禧之助博士、小山田貞次郎博士、小川琢治博士、藤原咸一博士、小藤文次郎博士、神保小虎博士、山田孝雄博士、田川次三博士、美濃部洋次博士、大坂赤十字病院長、長岡半太郎博士、大阪帝大医学部長、古川晴一博士、京都帝大医学部長、荒木俊馬博士、京都帝大理学部長、坪井忠二博士、東京帝大地震研究所長、萩原雄祐博士、東京帝大地震研究所、竹内均博士、東京帝大地震研究所、坪井誠太郎博士、東京帝大地震研究所、勝俣稔博士、東京帝大地震研究所、諸井孝文博士、東京帝大地震研究所、金井清博士、東京帝大地震研究所、浅田敏博士、東京帝大地震研究所、河角広博士、東京帝大地震研究所、松沢武雄

聖地へ建國奉仕隊
州民代表の健兒九十名
愈よ十日臺南市を出發

【台南電話】台南州建國奉仕隊は十日晴れの出發を控へて九日午後二時より神社外苑にて長谷川關長以下九十名隊員は川村知事の訓辭を始め關長の訓辭を受け十日も朝食の關長の指導下に服裝をなし同日午後十時二十五分台關發十一日出發の大和丸にて海洋報國の壯途に上ることとなつた、一行は一路靖國に參拜し落合を經まして後は伊勢神宮を始め神社佛閣、商業關拓少年團見學所等參觀の上歸台、十二日午前八時分着豫定である

奉賛會打合せ

【台中電話】台中神社境内に奉賛會臨時事務所を置き奉賛會台中州支部では同州の御神輿渡御に關する諸般の打合せを十一日午後一時より市役所樓上會議室に於て開催、市有不動產處分管理の件、水道使用條例改正案中字句修正の件、市營市場使用條例改正案中字句修正の件、一、臺中市昭和十四年度歲出入追加豫算の件

市、商店を統制

【新東電話】新東地方は所謂下淡水溪を中心とせる大經濟單位に高雄東港南港を經へ左方屏東市民の需給に關する野菜、鮮魚、魚類等は比較的關係にあるが、之が取引上場をなす小賣市場に於ては數多數消費者を惠すべき點あり、取あへず今回小賣市場關係業者百八十名を網合して實施組合を結成

奉賛會打合せ

【台中電話】台中神社境内に奉賛會臨時事務所を置き奉賛會台中州支部では同州の御神輿渡御に關する諸般の打合せを十一日午後一時より市役所樓上會議室に於て開催、市有不動產處分管理の件、水道使用條例改正案中字句修正の件、一、臺中市昭和十四年度歲出入追加豫算の件

市、商店を統制

【新東電話】新東地方は所謂下淡水溪を中心とせる大經濟單位に高雄東港南港を經へ左方屏東市民の需給に關する野菜、鮮魚、魚類等は比較的關係にあるが、之が取引上場をなす小賣市場に於ては數多數消費者を惠すべき點あり、取あへず今回小賣市場關係業者百八十名を網合して實施組合を結成

空襲時に裸火
〝將來改善努力を要すると〟
知事が防空訓練講評

【台南電話】本年度防空訓練第一回として過般來州下を三地區に區分し各地に第二種訓練を施行したが、九日赤崁樓前から講評あり、それに依ると成績は概ね良好にして新次同演習の後を期めるも解來總べを改善努力を要する點少くない、殊に晝間に比し演習して居るが、夜間時に裸火二、三處在りやうとは言ふ迄もない、その他に於ても未だ一般住民に對する普及徹底不充分と認むる點を指摘すると共に適切なる指導を與へたとの事である

奉賛會打合せ

【台中電話】台南神社境内に奉賛會臨時事務所を置き奉賛會台中州支部では同州の御神輿渡御に關する諸般の打合せを十一日午後一時より市役所樓上會議室に於て開催、市有不動產處分管理の件、水道使用條例改正案中字句修正の件、一、臺中市昭和十四年度歲出入追加豫算の件

市、商店を統制

【新東電話】新東地方は所謂下淡水溪を中心とせる大經濟單位に高雄東港南港を經へ左方屏東市民の需給に關する野菜、鮮魚、魚類等は比較的關係にあるが、之が取引上場をなす小賣市場に於ては數多數消費者を惠すべき點あり、取あへず今回小賣市場關係業者百八十名を網合して實施組合を結成

能高越え實地踏査
埔里期成同盟會有志が

台中州當局に於ては先般來花蓮港總督府關係當局と能高越方面と連絡を取り其の實現を期待して居たが、埔里街長楊江進氏を團長として街關係者、栗栖參事一行十二名は愈よ十日埔里出發當日、能高越道等に關する實地踏査の上、十三日花蓮港着の上一行の歸臺は總督府關係當局と打合を為す事に決定した、一行の顧問は總督府關係當局と打合を為す事に決定した、一行の顧問は總督府關係當局と打合を為す事に決定した、一行の顧問

臺灣糞尿譚

―新秋雜筆（三）―（上）

宮崎震・作

秋とは云へ、それはただ暦の上の變化に過ぎなく、白晝はまだまだ暑い夏である。この嚴然たる事實を弁へず、事もあらうに嚴肅なる詩人などと絶えたる風景を描かんとしては定めし迷惑かも知れぬことであらう、かう云ふ詩題なる文字を紙上に現らしたくはないけれども、幸か不幸か、即ちに從つてトーマス・バークレーの掌中に觸れた以上は、矢張り行掛りの上からも此の汚穢なる出來事に筆を染めないわけには行かぬ、何故と云つて、若しも前後六十七日と云ふ長い間を、多少でも觀的な態度を探し出すとすれば、當然一つの出來事を――即ち、一には臺灣の一流行症にかけるが本題との歴史的關係を、また一には、將來これから述べようとする數多な事件を選ぶよりほかに途はないからである

「糞と民族」について一體天下の學者と云ふ者は何の爲めに研究するのであらう

そしてまた、――いや、ここに改めて斷るまでもなく、ここに云ふ學者とは、トラックに積んだ糞の山の設計を數量の眞上に描き散らす農學士や、屠獸場の屋上に於ける豚の觀察を專門とする獸醫學士のことではなかつた、僕はもつと他の事を指すことにしよう

Kanpologie（ギリシヤ語である、數學の意）と云ふ言葉がある、糞學と譯する、生理學の一部門であつて、もとより僕等のやうな素人に縁のある學ではない、僕の觀察出來事は、一體に糞に關する印象を讀者に與へてゐた、のみならず、作者が此民族として江南最後に出征中との事實の明瞭した事は、一層にまた筆を好む世のヤーナリズムの興味を湧き起したのに過ぎなかつた

思ふに、此の大野蠻年の發端には、近來のわが文藝界には稀めて稀なのであらう

あまりの衝撃に驚倒した主人公は、トラックに積んだ糞の山金の設計を數量の眞上に描き散らす農學士や、屠獸場の屋上に於ける豚の觀察を專門とする獸醫學士のことではなかつた、僕はもつと他の事を指すことにしよう

Kanpologie（ギリシヤ語である、數學の意）と云ふ言葉がある、糞學と譯する、生理學の一部門であつて、もとより僕等のやうな素人に縁のある學ではない、僕の觀察出來事は、一體に糞に關する印象を讀者に與へてゐた、のみならず、作者が此民族として江南最後に出征中との事實の明瞭した事は、一層にまた筆を好む世のヤーナリズムの興味を湧き起したのに過ぎなかつた

思ふに、此の大野蠻年の發端には、近來のわが文藝界には稀めて稀なのであらう

そしてまた、――いや、ここに改めて斷るまでもなく、ここに云ふ學者とは、トラックに積んだ糞の山

連戰連捷の快報に 反戰色濃い獨逸

伯林の銀行家殊に甚し

【ニューヨーク八日發本社特電】ドイツ國内に於ける戰爭反對の不滿、空氣の惡化、擴大強化の危機が增大しつつありとの報は主としてパリから傳へられるはニューヨークでは可成り

宣傳

的意味を含むものとして割引きして考へられてゐるが種々情報を綜合するとこれは必ずしも無根の噂ではなく殊にベルリンの銀行家方面や政界方面も亦た文ポヘミア、モラヴア地方では大勝利のニュースに對し國民は何らの歡喜の色をも示してゐないと云はれる、報道機關として有名なニューヨークの有名なラヂオ時局解說者は「チエンバレン首相が英國議會にヒットラー政權は決してドイツの親衛的ロンドン空襲を恐れるからだけではなく實はドイツ國内のヒトラー政權

反對

空氣を熟知しこれを助長せんが爲めである」と昨七日夜の放送で力說したが獨側が反チエク空氣を極度に警戒してゐることは確かで、英側からドイツ國民に與へるラヂオが始まると數秒の中に同一波長の强力な電ゝを以て所謂ドイツ側の放送局から賑かな音樂の放送が開始されこれを掻き亂して終ふことが屢々であり逆にドイツ側の放送も英佛側では聽取困難な場合が多い、斯くて歐洲戰爭は空中戰よりも機械的戰爭とヒラ擴き戰爭の形態を取るに至れるが、ヒラ擴き戰爭の內容は英國の方が豐かな資源と經驗とを有するだけ有利であるとの見方が强い

分裂

を望むことは可成りドイツの國內

明暗一色の駐日大使館

戰勝に喜ぶ獨と憂色の波國

【東京九日發同盟】ワルソー陷落の報が傳はるや明暗二色――九日早朝からドイツ大使館は國旗の掲揚をそのままにつゞけ返つてゐるその中をワイシャツ姿でネクト大使が忙しげに武官、情報官室、經濟部と驅け廻つてゐる、武官室ではマヂキ大佐等がポーランドの地圖を睨んで「遂に陷ちた」と流石にニコヤかな歡びを顯はさなかつたがけふの午前一時過ぎ國防軍最高司令部からワルソー陷落の公電があり次いでワルソーに入つたのは南から進んで來た軍隊でドイツタンク隊の機械部隊がアデリアン大將の率ゐるタンク隊及び機械化部隊と殺戮に當つたのです、私等の想像では月中旬頃と思つてゐたが餘り早過ぎるので驚いてゐます――

首都ワルソーを奪はれたポーランド大使館はひつそり部屋に閉籠りカーテンの陰りた窓にも灰色一入寂しいものがある、ローメル大使もさすがに時より地圖を睨りつゝ何事かを考へ込んでゐる樣子で、ポーランド人館員の出入りも殆んどなく、館員の表情も暗く沈んでゐる

【ベルリン八日發同盟】ワルソー陷落の報が傳はるや、ベルリン市民は一齊に旗を掲げ、ワルソー陷落の號外が出ると、人々は爭つてこれを買ひ求めた、ワルソー陷落の報は、ベルリン市民にとつては豫期してゐたことであるが、それが實現されたことは、ベルリン市民に大きな喜びを與へた、ベルリンの各新聞は、ワルソー陷落の號外を發行したが、ベルリン市民は、ワルソー陷落の報を聞くや、ワルソーの地圖を買ひ求めて、ワルソーの位置を調べ、ワルソーの攻略戰の經過を研究して

けふ全種目を擧行

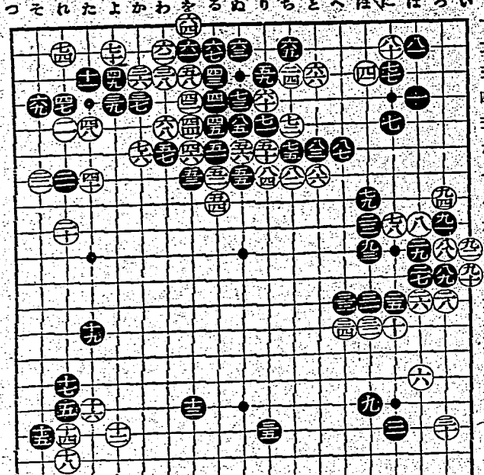
小公敎員、青年團陸上大會

昨日と本日二日間に亙つて開催される筈であつた全島小公學校敎員體育大會並に青年團陸上競技大會は昨日の雨で擧行不能となつたので、今二日午前十時より各種目を擧行することと決定した、尙當日は

（第三種郵便物認可）

本社主催　本日休刊
第一次一般公募
高段者對抗碁戰

白　藤澤庫之助　先　刈部榮三郎



一二三四五六七八九十廿廿一廿二廿三廿四廿五廿六廿七

【第三局の十四】

○八〇に二　1　●八一は二
○八一七七　27　●八二七六
○八四九七　●八五五五　2
○八六七七　2　●八七八六　5
○八六八二　○2　●八八八二　一ノ
○八九一一　○5　●九一二八　2
○九一一一　○5　●九二三一　○
○九四八八

兵時間を九時間（一分以內切捨）
持時間　黒一七時二三分
　　白一四時二五分

激戰漸く落着し

結果は白の有利に歸す

評解　七段　瀨越憲作

◇白八二乃至八六は、七八の意圖を遂行したのである、即ち四以下の數子を活てるべく決意した白は先づ七八と突き出したのである、白が敢て危險を冒すこと、七八以下の作戰を採つて、四以下の安全を犧牲したのは、大勢を考慮した打方であつた事を首肯されたであらう。

◇從に二十數手を知つて置かねばならぬ事が出來、それは白九四と打つた後に、黒から四ノ八に乃ど出されると、白は黒五五の一子を取るすが無いことである、それ故に從で解說する通りに、白八十と八二を打つて、その損失を最少限度に止めようとしたのである。

◇これより先き白八十と一ネ、黒八一と交換したのは後に續が物凄いが如き利得を殘したのであるが、此事如何樣にも無心親切な忙中閑等の妙用と申すべきである。

◇白八三は、黒八四に對して、白八五と一ネ、黒八二、白八三、黒一ノ一、白一ノ二、黒八六、白八七、黒一ノ三、白一ノ四、黒八五、白一ノ五、黒一ノ六、白一ノ七、黒一ノ八、白一ノ九、黒一ノ十、白一ノ十一、黒一ノ十二、白一ノ十三、黒一ノ十四、白一ノ十五、黒一ノ十六、白一ノ十七、黒一ノ十八、白一ノ十九、黒一ノ二十、白一ノ廿一、黒一ノ廿二、白一ノ廿三、黒一ノ廿四、白一ノ廿五、黒一ノ廿六、白一ノ廿七、黒一ノ廿八、白一ノ廿九、黒一ノ三十、白一ノ卅一、黒一ノ卅二、白一ノ卅三、黒一ノ卅四、白一ノ卅五、黒一ノ卅六、白一ノ卅七、黒一ノ卅八、白一ノ卅九、黒一ノ四十、白一ノ四一、黒一ノ四二、白一ノ四三、黒一ノ四四、白一ノ四五、黒一ノ四六、白一ノ四七、黒一ノ四八、白一ノ四九、黒一ノ五十、白一ノ五一、黒一ノ五二、白一ノ五三、黒一ノ五四、白一ノ五五、黒一ノ五六、白一ノ五七、黒一ノ五八、白一ノ五九、黒一ノ六十、白一ノ六一、黒一ノ六二、白一ノ六三、黒一ノ六四、白一ノ六五、黒一ノ六六、白一ノ六七、黒一ノ六八、白一ノ六九、黒一ノ七十、白一ノ七一、黒一ノ七二、白一ノ七三、黒一ノ七四、白一ノ七五、黒一ノ七六、白一ノ七七、黒一ノ七八、白一ノ七九、黒一ノ八十、白一ノ八一、黒一ノ八二、白一ノ八三、黒一ノ八四、白一ノ八五、黒一ノ八六、白一ノ八七、黒一ノ八八、白一ノ八九、黒一ノ九十、白一ノ九一、黒一ノ九二、白一ノ九三、黒一ノ九四、白一ノ九五、黒一ノ九六、白一ノ九七、黒一ノ九八、白一ノ九九、黒一ノ百、白一ノ百一、黒一ノ百二、白一ノ百三、黒一ノ百四、白一ノ百五、黒一ノ百六、白一ノ百七、黒一ノ百八、白一ノ百九、黒一ノ百十、白一ノ百十一、黒一ノ百十二、白一ノ百十三、黒一ノ百十四、白一ノ百十五、黒一ノ百十六、白一ノ百十七、黒一ノ百十八、白一ノ百十九、黒一ノ百二十、白一ノ百廿一、黒一ノ百廿二、白一ノ百廿三、黒一ノ百廿四、白一ノ百廿五、黒一ノ百廿六、白一ノ百廿七、黒一ノ百廿八、白一ノ百廿九、黒一ノ百三十、白一ノ百卅一、黒一ノ百卅二、白一ノ百卅三、黒一ノ百卅四、白一ノ百卅五、黒一ノ百卅六、白一ノ百卅七、黒一ノ百卅八、白一ノ百卅九、黒一ノ百四十、白一ノ百四一、黒一ノ百四二、白一ノ百四三、黒一ノ百四四、白一ノ百四五、黒一ノ百四六、白一ノ百四七、黒一ノ百四八、白一ノ百四九、黒一ノ百五十、白一ノ百五一、黒一ノ百五二、白一ノ百五三、黒一ノ百五四、白一ノ百五五、黒一ノ百五六、白一ノ百五七、黒一ノ百五八、白一ノ百五九、黒一ノ百六十、白一ノ百六一、黒一ノ百六二、白一ノ百六三、黒一ノ百六四、白一ノ百六五、黒一ノ百六六、白一ノ百六七、黒一ノ百六八、白一ノ百六九、黒一ノ百七十、白一ノ百七一、黒一ノ百七二、白一ノ百七三、黒一ノ百七四、白一ノ百七五、黒一ノ百七六、白一ノ百七七、黒一ノ百七八、白一ノ百七九、黒一ノ百八十、白一ノ百八一、黒一ノ百八二、白一ノ百八三、黒一ノ百八四、白一ノ百八五、黒一ノ百八六、白一ノ百八七、黒一ノ百八八、白一ノ百八九、黒一ノ百九十、白一ノ百九一、黒一ノ百九二、白一ノ百九三、黒一ノ百九四、白一ノ百九五、黒一ノ百九六、白一ノ百九七、黒一ノ百九八、白一ノ百九九、黒一ノ二百、白一ノ二百一、黒一ノ二百二、白一ノ二百三、黒一ノ二百四、白一ノ二百五、黒一ノ二百六、白一ノ二百七、黒一ノ二百八、白一ノ二百九、黒一ノ二百十、白一ノ二百十一、黒一ノ二百十二、白一ノ二百十三、黒一ノ二百十四、白一ノ二百十五、黒一ノ二百十六、白一ノ二百十七、黒一ノ二百十八、白一ノ二百十九、黒一ノ二百二十、白一ノ二百廿一、黒一ノ二百廿二、白一ノ二百廿三、黒一ノ二百廿四、白一ノ二百廿五、黒一ノ二百廿六、白一ノ二百廿七、黒一ノ二百廿八、白一ノ二百廿九、黒一ノ二百三十、白一ノ二百卅一、黒一ノ二百卅二、白一ノ二百卅三、黒一ノ二百卅四、白一ノ二百卅五、黒一ノ二百卅六、白一ノ二百卅七、黒一ノ二百卅八、白一ノ二百卅九、黒一ノ二百四十、白一ノ二百四一、黒一ノ二百四二、白一ノ二百四三、黒一ノ二百四四、白一ノ二百四五、黒一ノ二百四六、白一ノ二百四七、黒一ノ二百四八、白一ノ二百四九、黒一ノ二百五十、白一ノ二百五一、黒一ノ二百五二、白一ノ二百五三、黒一ノ二百五四、白一ノ二百五五、黒一ノ二百五六、白一ノ二百五七、黒一ノ二百五八、白一ノ二百五九、黒一ノ二百六十、白一ノ二百六一、黒一ノ二百六二、白一ノ二百六三、黒一ノ二百六四、白一ノ二百六五、黒一ノ二百六六、白一ノ二百六七、黒一ノ二百六八、白一ノ二百六九、黒一ノ二百七十、白一ノ二百七一、黒一ノ二百七二、白一ノ二百七三、黒一ノ二百七四、白一ノ二百七五、黒一ノ二百七六、白一ノ二百七七、黒一ノ二百七八、白一ノ二百七九、黒一ノ二百八十、白一ノ二百八一、黒一ノ二百八二、白一ノ二百八三、黒一ノ二百八四、白一ノ二百八五、黒一ノ二百八六、白一ノ二百八七、黒一ノ二百八八、白一ノ二百八九、黒一ノ二百九十、白一ノ二百九一、黒一ノ二百九二、白一ノ二百九三、黒一ノ二百九四、白一ノ二百九五、黒一ノ二百九六、白一ノ二百九七、黒一ノ二百九八、白一ノ二百九九、黒一ノ三百、白一ノ三百一、黒一ノ三百二、白一ノ三百三、黒一ノ三百四、白一ノ三百五、黒一ノ三百六、白一ノ三百七、黒一ノ三百八、白一ノ三百九、黒一ノ三百十、白一ノ三百十一、黒一ノ三百十二、白一ノ三百十三、黒一ノ三百十四、白一ノ三百十五、黒一ノ三百十六、白一ノ三百十七、黒一ノ三百十八、白一ノ三百十九、黒一ノ三百二十、白一ノ三百廿一、黒一ノ三百廿二、白一ノ三百廿三、黒一ノ三百廿四、白一ノ三百廿五、黒一ノ三百廿六、白一ノ三百廿七、黒一ノ三百廿八、白一ノ三百廿九、黒一ノ三百三十、白一ノ三百卅一、黒一ノ三百卅二、白一ノ三百卅三、黒一ノ三百卅四、白一ノ三百卅五、黒一ノ三百卅六、白一ノ三百卅七、黒一ノ三百卅八、白一ノ三百卅九、黒一ノ三百四十、白一ノ三百四一、黒一ノ三百四二、白一ノ三百四三、黒一ノ三百四四、白一ノ三百四五、黒一ノ三百四六、白一ノ三百四七、黒一ノ三百四八、白一ノ三百四九、黒一ノ三百五十、白一ノ三百五一、黒一ノ三百五二、白一ノ三百五三、黒一ノ三百五四、白一ノ三百五五、黒一ノ三百五六、白一ノ三百五七、黒一ノ三百五八、白一ノ三百五九、黒一ノ三百六十、白一ノ三百六一、黒一ノ三百六二、白一ノ三百六三、黒一ノ三百六四、白一ノ三百六五、黒一ノ三百六六、白一ノ三百六七、黒一ノ三百六八、白一ノ三百六九、黒一ノ三百七十、白一ノ三百七一、黒一ノ三百七二、白一ノ三百七三、黒一ノ三百七四、白一ノ三百七五、黒一ノ三百七六、白一ノ三百七七、黒一ノ三百七八、白一ノ三百七九、黒一ノ三百八十、白一ノ三百八一、黒一ノ三百八二、白一ノ三百八三、黒一ノ三百八四、白一ノ三百八五、黒一ノ三百八六、白一ノ三百八七、黒一ノ三百八八、白一ノ三百八九、黒一ノ三百九十、白一ノ三百九一、黒一ノ三百九二、白一ノ三百九三、黒一ノ三百九四、白一ノ三百九五、黒一ノ三百九六、白一ノ三百九七、黒一ノ三百九八、白一ノ三百九九、黒一ノ四百、白一ノ四百一、黒一ノ四百二、白一ノ四百三、黒一ノ四百四、白一ノ四百五、黒一ノ四百六、白一ノ四百七、黒一ノ四百八、白一ノ四百九、黒一ノ四百十、白一ノ四百十一、黒一ノ四百十二、白一ノ四百十三、黒一ノ四百十四、白一ノ四百十五、黒一ノ四百十六、白一ノ四百十七、黒一ノ四百十八、白一ノ四百十九、黒一ノ四百二十、白一ノ四百廿一、黒一ノ四百廿二、白一ノ四百廿三、黒一ノ四百廿四、白一ノ四百廿五、黒一ノ四百廿六、白一ノ四百廿七、黒一ノ四百廿八、白一ノ四百廿九、黒一ノ四百三十、白一ノ四百卅一、黒一ノ四百卅二、白一ノ四百卅三、黒一ノ四百卅四、白一ノ四百卅五、黒一ノ四百卅六、白一ノ四百卅七、黒一ノ四百卅八、白一ノ四百卅九、黒一ノ四百四十、白一ノ四百四一、黒一ノ四百四二、白一ノ四百四三、黒一ノ四百四四、白一ノ四百四五、黒一ノ四百四六、白一ノ四百四七、黒一ノ四百四八、白一ノ四百四九、黒一ノ四百五十、白一ノ四百五一、黒一ノ四百五二、白一ノ四百五三、黒一ノ四百五四、白一ノ四百五五、黒一ノ四百五六、白一ノ四百五七、黒一ノ四百五八、白一ノ四百五九、黒一ノ四百六十、白一ノ四百六一、黒一ノ四百六二、白一ノ四百六三、黒一ノ四百六四、白一ノ四百六五、黒一ノ四百六六、白一ノ四百六七、黒一ノ四百六八、白一ノ四百六九、黒一ノ四百七十、白一ノ四百七一、黒一ノ四百七二、白一ノ四百七三、黒一ノ四百七四、白一ノ四百七五、黒一ノ四百七六、白一ノ四百七七、黒一ノ四百七八、白一ノ四百七九、黒一ノ四百八十、白一ノ四百八一、黒一ノ四百八二、白一ノ四百八三、黒一ノ四百八四、白一ノ四百八五、黒一ノ四百八六、白一ノ四百八七、黒一ノ四百八八、白一ノ四百八九、黒一ノ四百九十、白一ノ四百九一、黒一ノ四百九二、白一ノ四百九三、黒一ノ四百九四、白一ノ四百九五、黒一ノ四百九六、白一ノ四百九七、黒一ノ四百九八、白一ノ四百九九、黒一ノ五百、白一ノ五百一、黒一ノ五百二、白一ノ五百三、黒一ノ五百四、白一ノ五百五、黒一ノ五百六、白一ノ五百七、黒一ノ五百八、白一ノ五百九、黒一ノ五百十、白一ノ五百十一、黒一ノ五百十二、白一ノ五百十三、黒一ノ五百十四、白一ノ五百十五、黒一ノ五百十六、白一ノ五百十七、黒一ノ五百十八、白一ノ五百十九、黒一ノ五百二十、白一ノ五百廿一、黒一ノ五百廿二、白一ノ五百廿三、黒一ノ五百廿四、白一ノ五百廿五、黒一ノ五百廿六、白一ノ五百廿七、黒一ノ五百廿八、白一ノ五百廿九、黒一ノ五百三十、白一ノ五百卅一、黒一ノ五百卅二、白一ノ五百卅三、黒一ノ五百卅四、白一ノ五百卅五、黒一ノ五百卅六、白一ノ五百卅七、黒一ノ五百卅八、白一ノ五百卅九、黒一ノ五百四十、白一ノ五百四一、黒一ノ五百四二、白一ノ五百四三、黒一ノ五百四四、白一ノ五百四五、黒一ノ五百四六、白一ノ五百四七、黒一ノ五百四八、白一ノ五百四九、黒一ノ五百五十、白一ノ五百五一、黒一ノ五百五二、白一ノ五百五三、黒一ノ五百五四、白一ノ五百五五、黒一ノ五百五六、白一ノ五百五七、黒一ノ五百五八、白一ノ五百五九、黒一ノ五百六十、白一ノ五百六一、黒一ノ五百六二、白一ノ五百六三、黒一ノ五百六四、白一ノ五百六五、黒一ノ五百六六、白一ノ五百六七、黒一ノ五百六八、白一ノ五百六九、黒一ノ五百七十、白一ノ五百七一、黒一ノ五百七二、白一ノ五百七三、黒一ノ五百七四、白一ノ五百七五、黒一ノ五百七六、白一ノ五百七七、黒一ノ五百七八、白一ノ五百七九、黒一ノ五百八十、白一ノ五百八一、黒一ノ五百八二、白一ノ五百八三、黒一ノ五百八四、白一ノ五百八五、黒一ノ五百八六、白一ノ五百八七、黒一ノ五百八八、白一ノ五百八九、黒一ノ五百九十、白一ノ五百九一、黒一ノ五百九二、白一ノ五百九三、黒一ノ五百九四、白一ノ五百九五、黒一ノ五百九六、白一ノ五百九七、黒一ノ五百九八、白一ノ五百九九、黒一ノ六百、白一ノ六百一、黒一ノ六百二、白一ノ六百三、黒一ノ六百四、白一ノ六百五、黒一ノ六百六、白一ノ六百七、黒一ノ六百八、白一ノ六百九、黒一ノ六百十、白一ノ六百十一、黒一ノ六百十二、白一ノ六百十三、黒一ノ六百十四、白一ノ六百十五、黒一ノ六百十六、白一ノ六百十七、黒一ノ六百十八、白一ノ六百十九、黒一ノ六百二十、白一ノ六百廿一、黒一ノ六百廿二、白一ノ六百廿三、黒一ノ六百廿四、白一ノ六百廿五、黒一ノ六百廿六、白一ノ六百廿七、黒一ノ六百廿八、白一ノ六百廿九、黒一ノ六百三十、白一ノ六百卅一、黒一ノ六百卅二、白一ノ六百卅三、黒一ノ六百卅四、白一ノ六百卅五、黒一ノ六百卅六、白一ノ六百卅七、黒一ノ六百卅八、白一ノ六百卅九、黒一ノ六百四十、白一ノ六百四一、黒一ノ六百四二、白一ノ六百四三、黒一ノ六百四四、白一ノ六百四五、黒一ノ六百四六、白一ノ六百四七、黒一ノ六百四八、白一ノ六百四九、黒一ノ六百五十、白一ノ六百五一、黒一ノ六百五二、白一ノ六百五三、黒一ノ六百五四、白一ノ六百五五、黒一ノ六百五六、白一ノ六百五七、黒一ノ六百五八、白一ノ六百五九、黒一ノ六百六十、白一ノ六百六一、黒一ノ六百六二、白一ノ六百六三、黒一ノ六百六四、白一ノ六百六五、黒一ノ六百六六、白一ノ六百六七、黒一ノ六百六八、白一ノ六百六九、黒一ノ六百七十、白一ノ六百七一、黒一ノ六百七二、白一ノ六百七三、黒一ノ六百七四、白一ノ六百七五、黒一ノ六百七六、白一ノ六百七七、黒一ノ六百七八、白一ノ六百七九、黒一ノ六百八十、白一ノ六百八一、黒一ノ六百八二、白一ノ六百八三、黒一ノ六百八四、白一ノ六百八五、黒一ノ六百八六、白一ノ六百八七、黒一ノ六百八八、白一ノ六百八九、黒一ノ六百九十、白一ノ六百九一、黒一ノ六百九二、白一ノ六百九三、黒一ノ六百九四、白一ノ六百九五、黒一ノ六百九六、白一ノ六百九七、黒一ノ六百九八、白一ノ六百九九、黒一ノ七百、白一ノ七百一、黒一ノ七百二、白一ノ七百三、黒一ノ七百四、白一ノ七百五、黒一ノ七百六、白一ノ七百七、黒一ノ七百八、白一ノ七百九、黒一ノ七百十、白一ノ七百十一、黒一ノ七百十二、白一ノ七百十三、黒一ノ七百十四、白一ノ七百十五、黒一ノ七百十六、白一ノ七百十七、黒一ノ七百十八、白一ノ七百十九、黒一ノ七百二十、白一ノ七百廿一、黒一ノ七百廿二、白一ノ七百廿三、黒一ノ七百廿四、白一ノ七百廿五、黒一ノ七百廿六、白一ノ七百廿七、黒一ノ七百廿八、白一ノ七百廿九、黒一ノ七百三十、白一ノ七百卅一、黒一ノ七百卅二、白一ノ七百卅三、黒一ノ七百卅四、白一ノ七百卅五、黒一ノ七百卅六、白一ノ七百卅七、黒一ノ七百卅八、白一ノ七百卅九、黒一ノ七百四十、白一ノ七百四一、黒一ノ七百四二、白一ノ七百四三、黒一ノ七百四四、白一ノ七百四五、黒一ノ七百四六、白一ノ七百四七、黒一ノ七百四八、白一ノ七百四九、黒一ノ七百五十、白一ノ七百五一、黒一ノ七百五二、白一ノ七百五三、黒一ノ七百五四、白一ノ七百五五、黒一ノ七百五六、白一ノ七百五七、黒一ノ七百五八、白一ノ七百五九、黒一ノ七百六十、白一ノ七百六一、黒一ノ七百六二、白一ノ七百六三、黒一ノ七百六四、白一ノ七百六五、黒一ノ七百六六、白一ノ七百六七、黒一ノ七百六八、白一ノ七百六九、黒一ノ七百七十、白一ノ七百七一、黒一ノ七百七二、白一ノ七百七三、黒一ノ七百七四、白一ノ七百七五、黒一ノ七百七六、白一ノ七百七七、黒一ノ七百七八、白一ノ七百七九、黒一ノ七百八十、白一ノ七百八一、黒一ノ七百八二、白一ノ七百八三、黒一ノ七百八四、白一ノ七百八五、黒一ノ七百八六、白一ノ七百八七、黒一ノ七百八八、白一ノ七百八九、黒一ノ七百九十、白一ノ七百九一、黒一ノ七百九二、白一ノ七百九三、黒一ノ七百九四、白一ノ七百九五、黒一ノ七百九六、白一ノ七百九七、黒一ノ七百九八、白一ノ七百九九、黒一ノ八百、白一ノ八百一、黒一ノ八百二、白一ノ八百三、黒一ノ八百四、白一ノ八百五、黒一ノ八百六、白一ノ八百七、黒一ノ八百八、白一ノ八百九、黒一ノ八百十、白一ノ八百十一、黒一ノ八百十二、白一ノ八百十三、黒一ノ八百十四、白一ノ八百十五、黒一ノ八百十六、白一ノ八百十七、黒一ノ八百十八、白一ノ八百十九、黒一ノ八百二十、白一ノ八百廿一、黒一ノ八百廿二、白一ノ八百廿三、黒一ノ八百廿四、白一ノ八百廿五、黒一ノ八百廿六、白一ノ八百廿七、黒一ノ八百廿八、白一ノ八百廿九、黒一ノ八百三十、白一ノ八百卅一、黒一ノ八百卅二、白一ノ八百卅三、黒一ノ八百卅四、白一ノ八百卅五、黒一ノ八百卅六、白一ノ八百卅七、黒一ノ八百卅八、白一ノ八百卅九、黒一ノ八百四十、白一ノ八百四一、黒一ノ八百四二、白一ノ八百四三、黒一ノ八百四四、白一ノ八百四五、黒一ノ八百四六、白一ノ八百四七、黒一ノ八百四八、白一ノ八百四九、黒一ノ八百五十、白一ノ八百五一、黒一ノ八百五二、白一ノ八百五三、黒一ノ八百五四、白一ノ八百五五、黒一ノ八百五六、白一ノ八百五七、黒一ノ八百五八、白一ノ八百五九、黒一ノ八百六十、白一ノ八百六一、黒一ノ八百六二、白一ノ八百六三、黒一ノ八百六四、白一ノ八百六五、黒一ノ八百六六、白一ノ八百六七、黒一ノ八百六八、白一ノ八百六九、黒一ノ八百七十、白一ノ八百七一、黒一ノ八百七二、白一ノ八百七三、黒一ノ八百七四、白一ノ八百七五、黒一ノ八百七六、白一ノ八百七七、黒一ノ八百七八、白一ノ八百七九、黒一ノ八百八十、白一ノ八百八一、黒一ノ八百八二、白一ノ八百八三、黒一ノ八百八四、白一ノ八百八五、黒一ノ八百八六、白一ノ八百八七、黒一ノ八百八八、白一ノ八百八九、黒一ノ八百九十、白一ノ八百九一、黒一ノ八百九二、白一ノ八百九三、黒一ノ八百九四、白一ノ八百九五、黒一ノ八百九六、白一ノ八百九七、黒一ノ八百九八、白一ノ八百九九、黒一ノ九百、白一ノ九百一、黒一ノ九百二、白一ノ九百三、黒一ノ九百四、白一ノ九百五、黒一ノ九百六、白一ノ九百七、黒一ノ九百八、白一ノ九百九、黒一ノ九百十、白一ノ九百十一、黒一ノ九百十二、白一ノ九百十三、黒一ノ九百十四、白一ノ九百十五、黒一ノ九百十六、白一ノ九百十七、黒一ノ九百十八、白一ノ九百十九、黒一ノ九百二十、白一ノ九百廿一、黒一ノ九百廿二、白一ノ九百廿三、黒一ノ九百廿四、白一ノ九百廿五、黒一ノ九百廿六、白一ノ九百廿七、黒一ノ九百廿八、白一ノ九百廿九、黒一ノ九百三十、白一ノ九百卅一、黒一ノ九百卅二、白一ノ九百卅三、黒一ノ九百卅四、白一ノ九百卅五、黒一ノ九百卅六、白一ノ九百卅七、黒一ノ九百卅八、白一ノ九百卅九、黒一ノ九百四十、白一ノ九百四一、黒一ノ九百四二、白一ノ九百四三、黒一ノ九百四四、白一ノ九百四五、黒一ノ九百四六、白一ノ九百四七、黒一ノ九百四八、白一ノ九百四九、黒一ノ九百五十、白一ノ九百五一、黒一ノ九百五二、白一ノ九百五三、黒一ノ九百五四、白一ノ九百五五、黒一ノ九百五六、白一ノ九百五七、黒一ノ九百五八、白一ノ九百五九、黒一ノ九百六十、白一ノ九百六一、黒一ノ九百六二、白一ノ九百六三、黒一ノ九百六四、白一ノ九百六五、黒一ノ九百六六、白一ノ九百六七、黒一ノ九百六八、白一ノ九百六九、黒一ノ九百七十、白一ノ九百七一、黒一ノ九百七二、白一ノ九百七三、黒一ノ九百七四、白一ノ九百七五、黒一ノ九百七六、白一ノ九百七七、黒一ノ九百七八、白一ノ九百七九、黒一ノ九百八十、白一ノ九百八一、黒一ノ九百八二、白一ノ九百八三、黒一ノ九百八四、白一ノ九百八五、黒一ノ九百八六、白一ノ九百八七、黒一ノ九百八八、白一ノ九百八九、黒一ノ九百九十、白一ノ九百九一、黒一ノ九百九二、白一ノ九百九三、黒一ノ九百九四、白一ノ九百九五、黒一ノ九百九六、白一ノ九百九七、黒一ノ九百九八、白一ノ九百九九、黒一ノ千百、白一ノ千百一、黒一ノ千百二、白一ノ千百三、黒一ノ千百四、白一ノ千百五、黒一ノ千百六、白一ノ千百七、黒一ノ千百八、白一ノ千百九、黒一ノ千百十、白一ノ千百十一、黒一ノ千百十二、白一ノ千百十三、黒一ノ千百十四、白一ノ千百十五、黒一ノ千百十六、白一ノ千百十七、黒一ノ千百十八、白一ノ千百十九、黒一ノ千百二十、白一ノ千百廿一、黒一ノ千百廿二、白一ノ千百廿三、黒一ノ千百廿四、白一ノ千百廿五、黒一ノ千百廿六、白一ノ千百廿七、黒一ノ千百廿八、白一ノ千百廿九、黒一ノ千百三十、白一ノ千百卅一、黒一ノ千百卅二、白一ノ千百卅三、黒一ノ千百卅四、白一ノ千百卅五、黒一ノ千百卅六、白一ノ千百卅七、黒一ノ千百卅八、白一ノ千百卅九、黒一ノ千百四十、白一ノ千百四一、黒一ノ千百四二、白一ノ千百四三、黒一ノ千百四四、白一ノ千百四五、黒一ノ千百四六、白一ノ千百四七、黒一ノ千百四八、白一ノ千百四九、黒一ノ千百五十、白一ノ千百五一、黒一ノ千百五二、白一ノ千百五三、黒一ノ千百五四、白一ノ千百五五、黒一ノ千百五六、白一ノ千百五七、黒一ノ千百五八、白一ノ千百五九、黒一ノ千百六十、白一ノ千百六一、黒一ノ千百六二、白一ノ千百六三、黒一ノ千百六四、白一ノ千百六五、黒一ノ千百六六、白一ノ千百六七、黒一ノ千百六八、白一ノ千百六九、黒一ノ千百七十、白一ノ千百七一、黒一ノ千百七二、白一ノ千百七三、黒一ノ千百七四、白一ノ千百七五、黒一ノ千百七六、白一ノ千百七七、黒一ノ千百七八、白一ノ千百七九、黒一ノ千百八十、白一ノ千百八一、黒一ノ千百八二、白一ノ千百八三、黒一ノ千百八四、白一ノ千百八五、黒一ノ千百八六、白一ノ千百八七、黒一ノ千百八八、白一ノ千百八九、黒一ノ千百九十、白一ノ千百九一、黒一ノ千百九二、白一ノ千百九三、黒一ノ千百九四、白一ノ千百九五、黒一ノ千百九六、白一ノ千百九七、黒一ノ千百九八、白一ノ千百九九、黒一ノ千二百、白一ノ千二百一、黒一ノ千二百二、白一ノ千二百三、黒一ノ千二百四、白一ノ千二百五、黒一ノ千二百六、白一ノ千二百七、黒一ノ千二百八、白一ノ千二百九、黒一ノ千二百十、白一ノ千二百十一、黒一ノ千二百十二、白一ノ千二百十三、黒一ノ千二百十四、白一ノ千二百十五、黒一ノ千二百十六、白一ノ千二百十七、黒一ノ千二百十八、白一ノ千二百十九、黒一ノ千二百二十、白一ノ千二百廿一、黒一ノ千二百廿二、白一ノ千二百廿三、黒一ノ千二百廿四、白一ノ千二百廿五、黒一ノ千二百廿六、白一ノ千二百廿七、黒一ノ千二百廿八、白一ノ千二百廿九、黒一ノ千二百三十、白一ノ千二百卅一、黒一ノ千二百卅二、白一ノ千二百卅三、黒一ノ千二百卅四、白一ノ千二百卅五、黒一ノ千二百卅六、白一ノ千二百卅七、黒一ノ千二百卅八、白一ノ千二百卅九、黒一ノ千二百四十、白一ノ千二百四一、黒一ノ千二百四二、白一ノ千二百四三、黒一ノ千二百四四、白一ノ千二百四五、黒一ノ千二百四六、白一ノ千二百四七、黒一ノ千二百四八、白一ノ千二百四九、黒一ノ千二百五十、白一ノ千二百五一、黒一ノ千二百五二、白一ノ千二百五三、黒一ノ千二百五四、白一ノ千二百五五、黒一ノ千二百五六、白一ノ千二百五七、黒一ノ千二百五八、白一ノ千二百五九、黒一ノ千二百六十、白一ノ千二百六一、黒一ノ千二百六二、白一ノ千二百六三、黒一ノ千二百六四、白一ノ千二百六五、黒一ノ千二百六六、白一ノ千二百六七、黒一ノ千二百六八、白一ノ千二百六九、黒一ノ千二百七十、白一ノ千二百七一、黒一ノ千二百七二、白一ノ千二百七三、黒一ノ千二百七四、白一ノ千二百七五、黒一ノ千二百七六、白一ノ千二百七七、黒一ノ千二百七八、白一ノ千二百七九、黒一ノ千二百八十、白一ノ千二百八一、黒一ノ千二百八二、白一ノ千二百八三、黒一ノ千二百八四、白一ノ千二百八五、黒一ノ千二百八六、白一ノ千二百八七、黒一ノ千二百八八、白一ノ千二百八九、黒一ノ千二百九十、白一ノ千二百九一、黒一ノ千二百九二、白一ノ千二百九三、黒一ノ千二百九四、白一ノ千二百九五、黒一ノ千二百九六、白一ノ千二百九七、黒一ノ千二百九八、白一ノ千二百九九、黒一ノ千三百、白一ノ千三百一、黒一ノ千三百二、白一ノ千三百三、黒一ノ千三百四、白一ノ千三百五、黒一ノ千三百六、白一ノ千三百七、黒一ノ千三百八、白一ノ千三百九、黒一ノ千三百十、白一ノ千三百十一、黒一ノ千三百十二、白一ノ千三百十三、黒一ノ千三百十四、白一ノ千三百十五、黒一ノ千三百十六、白一ノ千三百十七、黒一ノ千三百十八、白一ノ千三百十九、黒一ノ千三百二十、白一ノ千三百廿一、黒一ノ千三百廿二、白一ノ千三百廿三、黒一ノ千三百廿四、白一ノ千三百廿五、黒一ノ千三百廿六、白一ノ千三百廿七、黒一ノ千三百廿八、白一ノ千三百廿九、黒一ノ千三百三十、白一ノ千三百卅一、黒一ノ千三百卅二、白一ノ千三百卅三、黒一ノ千三百卅四、白一ノ千三百卅五、黒一ノ千三百卅六、白一ノ千三百卅七、黒一ノ千三百卅八、白一ノ千三百卅九、黒一ノ千三百四十、白一ノ千三百四一、黒一ノ千三百四二、白一ノ千三百四三、黒一ノ千三百四四、白一ノ千三百四五、黒一ノ千三百四六、白一ノ千三百四七、黒一ノ千三百四八、白一ノ千三百四九、黒一ノ千三百五十、白一ノ千三百五一、黒一ノ千三百五二、白一ノ千三百五三、黒一ノ千三百五四、白一ノ千三百五五、黒一ノ千三百五六、白一ノ千三百五七、黒一ノ千三百五八、白一ノ千三百五九、黒一ノ千三百六十、白一ノ千三百六一、黒一ノ千三百六二、白一ノ千三百六三、黒一ノ千三百六四、白一ノ千三百六五、黒一ノ千三百六六、白一ノ千三百六七、黒一ノ千三百六八、白一ノ千三百六九、黒一ノ千三百七十、白一ノ千三百七一、黒一ノ千三百七二、白一ノ千三百七三、黒一ノ千三百七四、白一ノ千三百七五、黒一ノ千三百七六、白一ノ千三百七七、黒一ノ千三百七八、白一ノ千三百七九、黒一ノ千三百八十、白一ノ千三百八一、黒一ノ千三百八二、白一ノ千三百八三、黒一ノ千三百八四、白一ノ千三百八五、黒一ノ千三百八六、白一ノ千三百八七、黒一ノ千三百八八、白一ノ千三百八九、黒一ノ千三百九十、白一ノ千三百九一、黒一ノ千三百九二、白一ノ千三百九三、黒一ノ千三百九四、白一ノ千三百九五、黒一ノ千三百九六、白一ノ千三百九七、黒一ノ千三百九八、白一ノ千三百九九、黒一ノ千四百、白一ノ千四百一、黒一ノ千四百二、白一ノ千四百三、黒一ノ千四百四、白一ノ千四百五、黒一ノ千四百六、白一ノ千四百七、黒一ノ千四百八、白一ノ千四百九、黒一ノ千四百十、白一ノ千四百十一、黒一ノ千四百十二、白一ノ千四百十三、黒一ノ千四百十四、白一ノ千四百十五、黒一ノ千四百十六、白一ノ千四百十七、黒一ノ千四百十八、白一ノ千四百十九、黒一ノ千四百二十、白一ノ千四百廿一、黒一ノ千四百廿二、白一ノ千四百廿三、黒一ノ千四百廿四、白一ノ千四百廿五、黒一ノ千四百廿六、白一ノ千四百廿七、黒一ノ千四百廿八、白一ノ千四百廿九、黒一ノ千四百三十、白一ノ千四百卅一、黒一ノ千四百卅二、白一ノ千四百卅三、黒一ノ千四百卅四、白一ノ千四百卅五、黒一ノ千四百卅六、白一ノ千四百卅七、黒一ノ千四百卅八、白一ノ千四百卅九、黒一ノ千四百四十、白一ノ千四百四一、黒一ノ千四百四二、白一ノ千四百四三、黒一ノ千四百四四、白一ノ千四百四五、黒一ノ千四百四六、白一ノ千四百四七、黒一ノ千四百四八、白一ノ千四百四九、黒一ノ千四百五十、白一ノ千四百五一、黒一ノ千四百五二、白一ノ千四百五三、黒一ノ千四百五四、白一ノ千四百五五、黒一ノ千四百五六、白一ノ千四百五七、黒一ノ千四百五八、白一ノ千四百五九、黒一ノ千四百六十、白一ノ千四百六一、黒一ノ千四百六二、白一ノ千四百六三、黒一ノ千四百六四、白一ノ千四百六五、黒一ノ千四百六六、白一ノ千四百六七、黒一ノ千四百六八、白一ノ千四百六九、黒一ノ千四百七十、白一ノ千四百七一、黒一ノ千四百七二、白一ノ千四百七三、黒一ノ千四百七四、白一ノ千四百七五、黒一ノ千四百七六、白一ノ千四百七七、黒一ノ千四百七八、白一ノ千四百七九、黒一ノ千四百八十、白一ノ千四百八一、黒一ノ千四百八二、白一ノ千四百八三、黒一ノ千四百八四、白一ノ千四百八五、黒一ノ千四百八六、白一ノ千四百八七、黒一ノ千四百八八、白一ノ千四百八九、黒一ノ千四百九十、白一ノ千四百九一、黒一ノ千四百九二、白一ノ千四百九三、黒一ノ千四百九四、白一ノ千四百九五、黒一ノ千四百九六、白一ノ千四百九七、黒一ノ千四百九八、白一ノ千四百九九、黒一ノ千五百、白一ノ千五百一、黒一ノ千五百二、白一ノ千五百三、黒一ノ千五百四、白一ノ千五百五、黒一ノ千五百六、白一ノ千五百七、黒一ノ千五百八、白一ノ千五百九、黒一ノ千五百十、白一ノ千五百十一、黒一ノ千五百十二、白一ノ千五百十三、黒一ノ千五百十四、白一ノ千五百十五、黒一ノ千五百十六、白一ノ千五百十七、黒一ノ千五百十八、白一ノ千五百十九、黒一ノ千五百二十、白一ノ千五百廿一、黒一ノ千五百廿二、白一ノ千五百廿三、黒一ノ千五百廿四、白一ノ千五百廿五、黒一